

群馬県前橋市

生川遺跡

マンション建設に伴う発掘調査報告書

1988

前橋市教育委員会
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

近年埋蔵文化財の発掘調査は、量・質共に増加しております。前橋市においても都市計画事業・土地改良事業、学校開設等の公共事業に伴い、多くの遺跡が確認され事前調査により貴重なデータが集積されております。民間の開発行為等も埋蔵文化財の包蔵地に土木工事等をするときは文化財保護法に届出を定めています。

生川遺跡は、有限会社信澤建築工業によるマンション建設に伴い、同社より前橋市教育委員会が調査依頼を受け、発掘調査を実施するに至ったものであります。

当遺跡は前橋台地中央部で、上野国府（推定）の東側、東山道の南側に位置し古代の重要な地域であったと推定されます。発掘調査は昭和61年4月13日から昭和61年6月4日まで実施し、その結果住居址20軒、土坑3基、井戸5基、溝2条等が確認されました。

調査を実施するに当たり有限会社信澤建設工業の御理解と御協力により、記録保存が出来ました事に厚く御礼申し上げます。

本報告書が、斯学の資料として利用されるところがあれば幸甚に存じます。

昭和63年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 関口和雄

例　　言

1. 本書は都市計画法第29条の開発行為（マンション建設事業）に先がけた開発予定地の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は前橋市教育委員会のもとに組織された、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 奈良三郎 昭59・4・1、団長 関口和雄 昭62・1・1就任）の委託を受けスナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永眞弘）が実施した。
3. 調査担当者 福田紀雄（前橋市文化財保護係長）
浜田博一（〃主任）
高橋正男（〃）
前原 豊（〃）
金子正人（スナガ環境測設株式会社専務取締役）
4. 遺跡名、所在地、調査期間及び調査面積は下記の通りである。
遺跡名 生川遺跡 略称 61H-4
所在地 前橋市南町2丁目29番8号
調査期間 発掘調査 昭和61年4月13日～6月4日まで実施した。
調査面積 800m²
5. 本調査における出土遺物は、前橋市教育委員会が保管している。
6. 本書はスナガ環境測設株式会社埋蔵文化財調査部が作成に当たり、執筆及び総括を金子正人が担当し、遺物の復元実測に佐々木智恵子と角田朱美が当り、その指導を荻野博巳が行い、作業事務を柴崎信江が行った。
7. 測量業務の指導監督は須永眞弘（測量士第52614号）が行なった。
発掘調査の作業に付いては安全管理と監督補助を荻野博巳と船藤亨が担当した。
8. 本遺跡の発掘調査では次の方々に御協力戴きました。記して感謝の意を表す次第であります。
有限公司信澤建設工業
群馬県教育委員会文化財保護課
群馬県埋蔵文化財調査事業団
9. 調査に参加した方々は次の通りであります。記して感謝致します。（順不同）

今井 芳生	新井 健造	新井 恒喜	今井ケサ代	大津満理子
小川 富八	小暮 陽一	小林 康典	田村 光子	高橋由美子
高橋 優介	須田シゲル	平出トミ子	門倉喜代美	長谷川千代乃
長谷川とめ				

目 次

序

例言

第1章 発掘調査に至る経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第3章 調査の概要	
1 調査方法	3
2 基本土層	3
第4章 遺構・遺物	
1 住居址	4
2 土坑・井戸址・溝	8
生川遺跡出土特殊遺物計測表	10
第5章 まとめ	10
生川遺跡住居址一覧表	11
出土遺物観察表	12
実測図1 住居址・井戸・土坑(平面・断面)実測図	19
実測図2 住居址及び調査区内出土遺物実測図	30
調査状況写真	43
出土遺物写真	45

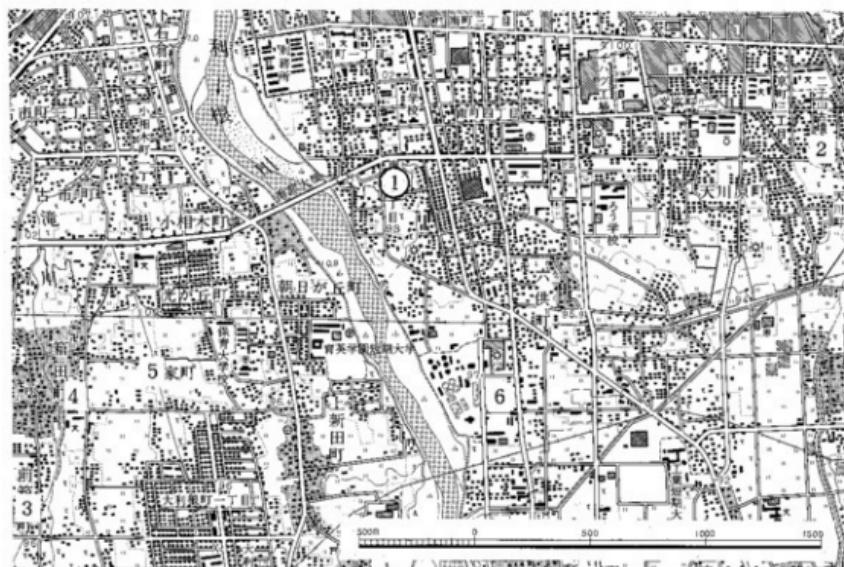
第1章 発掘調査に至る経過

生川遺跡は有限会社信澤建設工業のマンション建設計画に伴い試掘調査の依頼があり、試掘の結果古墳時代～平安時代の住居址11軒と溝2条、土坑1基が確認され、遺物も多數検出された事から開発行為者と協議・調整をし昭和61年4月10日より発掘調査をすることとなった。

生川遺跡は、前橋台地の中央部に位置し、上野国の中心地国府と東山道の推定地に近く条里制施行の名残と思われる「市之坪」や、寺院の存在が考えられる「京安寺」「北大門」等の字名がある。以上のような事から当地は遺跡の包蔵地として注目されており、市としても文化財保護の立場から土木工事等に際しては充分注意するよう指導していた。

調査経過（調査日誌より）

- 4月10日 表土掘削作業開始
15日 午後雨のため作業中止
測量器具・事務用品搬入
17日 1・2・5号住居址・1号井戸調査開始
19日 雨のため調査作業休み
20日 午後から作業
24日 基準点測量 X = 41,490.00m
Y = -68,410.00m (B-10) グリット
水準点測量 (標高100.30m設定)
25日 グリット杭打ち
5月1日 電気・水道設置完了
12日 考古学関係者5名来跡
17日 気球による空中撮影 見学者多数来跡。
24日 再度空中撮影〃
6月3日 発掘調査用具搬出
4日 後片付け完了



第1図 周辺遺跡の位置図

- 1. 生川遺跡
- 2. 天川二子山古墳
- 3. 前箱田遺跡
- 4. 村前遺跡
- 5. 五反田遺跡
- 6. 中大門遺跡

第2章 遺跡の位置と環境

生川遺跡の周辺を地形的、地質的に概観すると、本遺跡地は、前橋市の南部及び西部から南東に広がる前橋台地のほぼ中央、利根川左岸に位置し、標高100mの平坦な土地である。前橋台地は周知の通り、火山泥流堆積物とそれを被覆する水成ローム層から成り立つ洪積台地で、東は広瀬川低地帯と直線的な崖で画され、西は榛名山麓の肩状地へと続いている。現在、利根川は、本遺跡のすぐ西を流れているが、かつては広瀬川低地帯を流れていたと考えられており、利根川左岸と右岸の前橋台地は、地質的には同質と考えられている。前橋台地の地質を概観すると上部から、表土、水成上部ローム層（泥炭質層・火山灰質シルト層・軽石層等を含めた）、前橋泥流堆積物層、更にその下には厚く前橋砂疊層が続いている。

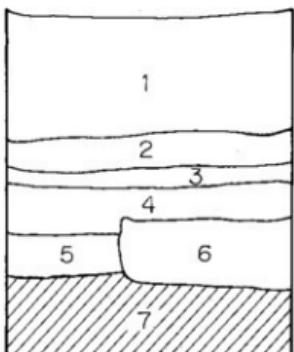
歴史的環境としては、弥生時代の遺跡は今現在確認されている遺跡は少ない。古墳時代の遺跡では、まず天神山古墳、八幡山古墳をはじめとする大きな古墳を見ることが出来る。かつては広瀬古墳群には約170基の古墳を数えた。石田川期の住居址5軒を検出した後閑団地遺跡の他、川曲遺跡、後閑II遺跡、坊山遺跡、下新田遺跡、新保遺跡等がある。さらに奈良・平安時代の前箱田遺跡、五反田遺跡、村前遺跡等の浅間B軽石下の水田址が検出されている。

第3章 調査の概要

1. 調査方法

調査地の北西隅に座標原点を設定して、全体を4m単位のメッシュで覆い、20mごとに基準杭を打った。主軸はY軸座標北方向に取りその直交方向をX軸とし、メッシュの単位はX軸を1~15、Y軸をA~Fと表記した。

調査は試掘調査の際古墳時代から平安時代の住居11軒、溝2条、土坑1基が確認された事に伴いマンション建設予定地部分を全面的に掘り下げる方法を取った。掘削は水田耕作土下の鉄分凝集層下面までバックホウによって行い、その後は手作業により遺構の検出に勤めた。グリット名は北西杭名で表した。B-10グリットはX=41,490.00m、Y=-68,410.00m、G-10グリットはX=41,470.00m、Y=-68,410.00mである。標高は100.30mを遺跡内に移しBMと定めて調査を進めた。



第2図 基本土層

基本土層

1層	盛り土
2層	水田（耕作土）
3層	鉄分凝集層（B軽石40%含む）
4層	暗褐色土層（C軽石10%） 粘性ややあり
5層	黒褐色土層（C軽石10%） 粘性強く締まっている。
6層	住居址覆土
7層	地山（砂質の黄褐色ローム層）

第4章 遺構・遺物

1. 検出された20軒の住居址の内古墳時代の住居址10軒、奈良・平安時代の住居址10軒が確認された。しかしこの他にも住居址の存在を窺わせる堅い面と遺物の出土が見られたが住居址と確定するに至らなかった。
2. 土坑は3基確認された。1号土坑は石田川期の甕の口縁が検出された。2号土坑は鬼高峰期のはば完形の甕と甕の口縁部と高台付塊が出土しておりこの期のものと考えられる。3号土坑は土層断面から風倒木によるものと思われる。
3. 井戸址は5本確認され全て素掘りであった。3号井戸以外遺物の検出もなく時期を決める資料に乏しい。

1. 住居址

1号住居址（第4図、図版1）

調査区の南西隅に位置し、D-0・1、E-0・1グリットに所在する。当遺跡の中で遺存状況の1番良好な住居であったが、西側は調査対象区外に続く。

規模は南北方向が3.27mで隅丸方形を呈するものと思われる。壁は40~45cm掘り込んで床面に達する。カマドの西側約1.5m、36cm×33cm、深さ46cm、円形を呈する。柱穴が1ヶ所だけ確認された。住居址の主軸はN-90°-E方向である。覆土は軽石を含む黒褐色土を基調にしている。壁溝は見られない。カマドは東壁の中央部右寄りに位置する。

2号住居址（第5図、図版1）

調査区の南西隅に位置し、D-1グリットに所在する。近世と思われる井戸によりカマド左袖部が欠失し4号住居と重複部分は工場の鉄骨基礎により調査不可能であった。規模は長径約2.9mで南北方向、短径2.57mの平面形は隅丸方形を呈するものと思われる。壁は西壁で30cm掘り込んで床面に達し、床面積は7.45m²を測る。柱穴は確認できなかった。住居址の主軸はE-43°-S方向である。覆土は黒褐色土を基調にしている。壁溝も確認できなかった。カマドは南壁の中央部右寄りに位置する。

3号住居址（第6図、図版1）

調査区の北西隅に位置し、C-2グリットに所在する。覆土は浅くカマド周辺も搅乱がひどく、カマド周辺の焼土分布と灰層により住居址と確認できる状態であった。規模は長径3.48mで東西方向、短径2.8mの平面形は隅丸長方形を呈する。壁は16~20cm掘り込んで床面に達し、床面積は約9.74m²を測る。柱穴は不明。住居址の主軸はE-31°-S方向である。覆土は軽石を含む褐色土を基調にしている。壁溝は見あたらない。カマドは東壁の中央やや右寄りに位置する。遺物は掘り方で石田川の合付き甕の接合部が出土している。

4号住居址（第7図、図版1）

調査区の西側中央に位置し、C-1・2、D-1・2グリットに所在する。試掘時の東西方向トレンチ北側断面では4号住居址の落込みより、自然堆積面の方が黒色を呈していた。規模は約4m×4m四方の隅丸方形と考えられる。壁はカマド付近で12cm北西コーナーで22cmの掘り込が確認された。床面積は約16m²となる。柱穴は不明。住居址の主軸はE-26°-S方向である。覆土は軽石を含む褐色土を基調にしている。壁溝は見られない。カマドは東壁の中央部やや右寄りと南壁の中央部の2ヶ所に存在した。土層断面からすると4号住居址と重複して他に2軒の住居址が考えられるが、図示できる平面プランが得られなかった。

5号住居址（第8図、図版2）

調査区の南西隅に位置し、D-2、E-2グリットに所在する。カマド付近から遺物は多量に出土するが、プラン確認の難かしい住居であった。規模は長径2.85mで南北方向、短径2.25mの平面形は隅丸長方形を呈する。壁は10~31cm掘り込んで床面に達し、床面積は6.41m²を測る。柱穴は南北壁際に2ヶ所35cm×30cm、深さ44cm、34cm×33cm、深さ14cm、円形を呈する。住居址の主軸はE-30°-S方向である。覆土は軽石を含む褐色土を基調にしている。壁溝は確認できない。カマドは東壁の中央部やや右寄りに位置する。

6号住居址（第9図）

調査区の南西隅に位置し、E-1・2グリットに所在する。5号住居址掘り方作業中に堅い床面が確認されたことにより掘り広げる結果となった。平面形は東西方向が3.13mで南北方向は3.4m以上の隅丸長方形を呈するものと考えられる。壁は9~22cm掘り込んで床面に達している。柱穴は不明。住居址の主軸はE-37°-S方向である。覆土は黒褐色土を基調にしている。壁溝は見られない。カマドは東壁に位置する。

7号住居址

調査区の中央部に位置し、D-4・5、E-4・5グリットに所在する。工事基礎掘削断面に床面が確認されE-5グリット枕付近に土器が数点出土した。この付近がカマドと考えられる。

規模は東西方向が約2.2m南北方向が、3m以上と考えられ隅丸長方形を呈する。壁は20~28cm掘り込んで床面に達している。柱穴は不明。住居址の主軸はE-21°-S方向である。覆土は軽石を含む褐色土を基調にしている。壁溝は見あたらない。カマドは東壁に位置する。

8号住居址

調査区の中央部に位置し、D-5、E-5グリットに所在する。7号住居址と10号住居址の間に確認された。規模は長径3.66mで南北方向、短径約2.4mの平面形は隅丸長方形を呈する。壁は21~28cm掘り込んで床面に達し、床面積は約8.8m²を測る。柱穴は南西隅に53cm×45cm、深さ11cm、円形を呈する。住居址の主軸はE-20°-S方向である。覆土は軽石を含む黒褐色土を基調にしている。壁溝は見られない。カマドは東壁南東コーナー寄りに位置する。

9号住居址（第5図）

調査区の中央部に位置し、C-5・6、D-5・6グリットに所在する。中央部の試掘溝と土坑等で切られておりプランの確認が難しかった。規模は長径3.50mで南北方向、短径は不明。壁は12~30cm掘り込んで床面に達している。柱穴は検出されなかつた。住居址の主軸はE-33°-S

方向である。覆土は褐色土を基調にしている。壁溝は確認できなかった。

カマドは東壁の南寄りに位置する。遺物は須恵器の壺、土師質の脚台部、羽釜等がカマド付近に集中して検出された。

10号住居址

調査区の中央部南側に位置し、E-5・6グリットに所在する。規模は長径3.0mで南北方向、短径2.2mの平面形は隅丸長方形を呈する。壁は10cm掘り込んで床面に達し、床面積は6.6m²を測る。柱穴は確認できなかった。住居址の主軸はE-22°-S方向である。覆土は褐色土を基調にしている。

本住居址内で確認されたカマドは8号住居址のカマドと思われる。遺物としては土師質の小型壺が3点出土している。

11号住居址（第13図）

調査区の中央部北側に位置し、B-6・7、C-6・7グリットに所在する。カマドは試掘トレンチで切られており不明確、西壁60cm、南壁40cmの張り出しがみられる。規模は長径5.0mで東西方向、短径3.32mの平面形は隅丸方形を呈する。壁は9~22.5cm掘り込んで床面に達し、床面積は16.6m²を測る。柱穴は確認できなかった。住居址の主軸はE-25°-S方向である。覆土は褐色土を基調にしている。

カマドは東壁の中央部やや南寄りに位置する。遺物は高台付壺3点、灰釉壺1点、古墳時代の高环形土器1点が検出された。

12号住居址（図版2）

調査区の中央部南側に位置し、D-6・7、E-6・7グリットに所在する。カマド焚口部を試掘トレンチで失い、南壁は13号住居と重複する。西壁に20号住居址のカマドが確認された。規模は長径3.76m、短径2.9mの平面形は隅丸長方形を呈する。壁は24cm掘り込んで床面に達し、床面積は10.90m²を測る。柱穴は不明。住居址の主軸はN-19°-E方向である。覆土は褐色土を基調にしている。壁溝は見られない。カマドは東壁の中央部やや南寄りに位置する。遺物は須恵器壺1点、壺2点、小型甕1点、脚台部等が検出された。12H-1・12H-3・12H-4は高台の付く平安時代の遺物が出土しているが住居址のプランと12H-2・12H-5を伴う事から本住居址は古墳時代前期の住居と考えるのが妥当と思われる。

13号住居址

調査区の中央部南側に位置し、E-6グリットに所在する。北側は12号住居址と重複関係にある。

り南側は調査区域外のため不明である。規模は短径2.83mで平面形は隅丸長方形を呈するものと思われる。壁は9~18.5cm掘り込んで床面に達する。柱穴は確認されない。住居址の主軸はE-7°-S方向である。覆土は褐色土を基調にしている。

カマドは東壁で確認された。遺物は小型壺と脚台部が出土しており古墳時代後期の住居址と考えられる。

14号住居址（第10図）

調査区の中央部北側に位置し、C-7・8グリットに所在する。規模は長径4.6mで東西方向、短径3.47mの平面形は隅丸長方形を呈する。柱穴は確認されなかった。土坑が4ヶ所確認されている。住居址の主軸はE-32°-Sである。覆土は、ネンドを含む褐色土を基調にしている。

カマドは東壁の南寄りに位置する。遺物は壙が3点検出された。14H-2は流れ込みと考えられ、14H-1・14H-3は平安時代のものと考えられる。

15号住居址

調査区の中央部北側に位置し、C-8・9グリットに所在する。南は16号住居、西は14号住居、北は調査区域外でプランの確認は不可能であったが、カマドの遺存状況は良好であった。

カマドの主軸がE-16°-S方向である。

カマドは東壁に位置する。14・15・16号住居址の新旧関係は15号住居のカマド右袖と壁が14・16号住居により破壊されているので1番古く、16号住居の覆土の上に14号住居のカマドが構築されているので14号住居が新しい。15→16→14の順になる。

16号住居址（第11図）

調査区の中央部北側に位置し、C-8・9、D-8・9グリットに所在する。床面はローム迄掘り込まれており住居址全体を捉えることが出来た唯一の住居址である。14号住居址のカマドが16号住居址内で確認された。規模は長径4.16mで東西方向、短径4.12mの平面形は隅丸長方形を呈する。壁は7.5~36cm掘り込んで床面に達し、床面積は17.14m²を測る。

柱穴は確認されなかった。住居址の主軸はN-76°-Eである。覆土は黒褐色土を基調にしている。壁溝はカマドを除き一周している。本遺跡で周溝が確認できた唯一の住居址であり、さらに北側で40cm、西側で50cm内側に1~3.5cmの溝が確認され、拡張住居址と考えられる。

カマドは東壁の中央部やや南寄りに位置する。遺物は土師質土器で底部には糸切り痕が見られる壙が出土している。

17号住居址（図版2）

調査区の北東部に位置し、C-11・12グリットに所在する。カマドだけがしっかりした遺存状況であった。カマドの規模は長軸1.1m、短径0.77mの平面形であった。

遺物はカマドより出土した17H-2の壺の他壺2点、塊1点、甕2点、甕の脚台部1点が検出された。

18号住居址（第12図、図版2）

調査区の南東方向に位置し、E-11・12、F-11・12グリットに所在する。南側は調査区域外の為南壁は不明。規模は短径4.52m、平面形は隅丸長方形を呈するものと思われる。

壁は12.5~20.5cm掘り込んで床面に達している。柱穴は北西隅で31cm×27cm、深さ53cm、円形を呈し、北東隅で47cm×35cm、深さ54cm、楕円形を呈する。住居址の主軸はE-7°-S方向である。覆土は黒褐色土を基調にしている。壁溝は確認できない。

カマドは東壁の南寄りに位置する。遺物は壺8点内6点が小型の土師質である、他に塊1点、高台付塊1点が検出された。

19号住居址（第13図、図版2）

調査区の南東方向に位置し、E-11・12、F-11・12グリットに所在する。18号住居址の掘り方調査中に確認された。調査区域内ではカマドも炉も確認されなかった。規模は長径4.2mで東西方向で平面形は長方形を呈するものと思われる。床面と考えられる堅く踏み固められた範囲が捉えられたが、南側は調査区域外に統くため不明である。柱穴は北東隅に48cm×44cm、深さ43cm、楕円形を呈し、北西隅に41cm×35cm、深さ44cm、円形を呈する。覆土は黒褐色土を基調にしている。

遺物は壺2点、小型甕1点、甕1点、土玉6点が検出された。

20号住居址

調査区の中央部に位置し、D-6グリットに所在する。調査前の基礎コンクリートにより、住居址プランを確認することが出来なかった。12号住居内に構築されたカマドの煙道部を確認するのみであった。カマドは両抽幅65cm、煙道長55cmであった。

2. 土坑・井戸址・溝

土 坑

1号土坑はB-2グリットに位置し、その大半が調査区域外に延びるためその性格は不明、出

土遺物から鬼高窓のものと考えられる。

2号土坑はD-6グリットに位置し、遺物としては高台付塊・甕・甌の口縁部が出土している。プランは隅丸長方形を呈し、しっかりした掘り込みが見られた。

3号土坑は5-C、6-Cグリットに位置し、遺物は古墳時代の土器片が少量出土したが9号住居址の北壁を切っている事から9号住居址よりも新しい土坑である。

井戸址

1号井戸はD-1グリットに位置し、2号住居址のカマドを切って掘り込まれ、精円形を呈し長軸1.37m、短軸1.10m、深さ2.00m上部が開口するロート状の掘り込みである。

2号井戸はC-13グリットに位置し、長軸1.18m、短軸1.03m、深さ1.70mのはば円形を呈し円筒形の掘り込みである。付近から元祐通寶が出土した。

3号井戸はB-4グリットに位置し、長軸1.18m、短軸1.03m、深さ1.70mのはば円形を呈し上部は開口しロート状の掘り込みである。覆土中より和泉期の坏（3号井-1）と高坏（3号井-2）、石田川期の甕と鬼高窓の窓の底部、甕等が出土している。

4号井戸はD-9グリットに位置し、東西1.08m、南北1.08mの円形プランで深さは約1.10m傾斜を持つ掘り込みである。

5号井戸はC-9グリットに位置し東西78cm、南北77cmの円形プランで深さ1.88mで16号住居址の床面を掘り抜き円筒状を呈する。覆土中より土師器甕、器台の破片等8点が出土している。

溝

調査区中央部から溝1状が確認された。A-5グリットで南下し、B-6グリットで東に折れ、B-7グリットで再度南流し、F-7グリットで調査区外に走る。11号・14号住居址を切っている事、南北の土層を見ると確認面より上に掘り込みが見られる事から、古墳時代以降平安時代にかけて使用された溝と考えられる。北壁側で幅83.0cm、深さ24.5cm、南壁側で幅61.0cm、深さ25.0cmが測れる。

生川遺跡出土特殊遺物計測表

図版No.	種類	遺物No.	出土位置	1回目測定値(g)	2回目測定値(g)
特1	土製玉	1	19号住居址周辺	17.366	17.362
		2	同	16.191	16.192
		3	同	18.012	18.013
		4	同	18.774	18.775
		5	19号住居床面直上	14.352	14.352
		6	同	12.077	12.077
特2	碧玉製玉	一	一括	0.056	0.056
特3	元祐通寶	一	鑄造年号元祐8年(西暦1093年) 鑄造地は北宋と思われる。D-13グリットより出土。		
特4	石鐵	一	3号井戸付近	0.180	0.180
特5	紡錘車	一	19号住居址床面	23.310	23.290

註 上記特殊遺物の計測値は、前橋市立工業短期大学小川信夫助教授のご協力により計測したものである。

第5章 まとめ

本遺跡で検出された遺構・遺物は古墳時代初頭から平安時代に至る複合遺跡である。

広瀬川低地帯(古利根川)右岸一帯に現存する古墳群(註1)、前橋市南西部(註2)から高崎市北東部一帯(註3)の水田址が多数報告されている中で、本遺跡の所在地は前橋市中心部から南側1.2kmに位置し、現利根川の左右両岸付近では調査例及び報告例ともに少なく、この南町地区で古墳時代初期(註4)から平安時代までの生活の中心である住居址が確認されたことは、既に市街地となりこれから先調査されることも少ないとであろう事から貴重な資料と言える。

生川遺跡では石田川期の住居址1軒、和泉期土坑1基と鬼高期住居址8軒・井戸1基が確認され、奈良・平安時代の住居址10軒が確認され本遺跡における主体をなすものであり、その他に溝1条、井戸址4基、土坑3基が確認されている。しかも10号住居址で検出された埴輪の底部は1.5~3.0mm幅の縦のハケ目が見られる。14号住居址から検出された埴輪は胴部中位で外面は細かな縦方向のハケ目、内面にも同じく縦方向のハケ目が施されている。更に18号住居址で検出された埴輪は胴部中位でタガを持ち細かな縦のハケ目が施された埴輪の破片が出土している事も特筆されるよう。

最後に本調査地周辺は「倭名類聚抄」等の文献と古墳群から上毛野君の一族で勢力をもつた豪族である「朝倉君」の存在が早くから知られているが、当時の一般の人々の事については未知の状態であったが、今回の発掘調査により人々の生活の一端を知ることが出来、大変意義深いもの

となつた。

(註1) 広瀬古墳群 天神山古墳 天川二子山古墳 八幡山古墳

(註2) 前箱田遺跡 箱田境遺跡 五反田遺跡 村前遺跡

(註3) 菊池遺跡 北新波遺跡 矢島遺跡 寺ノ内遺跡 同道遺跡 御布呂遺跡 芦田貝戸遺跡 井出村遺跡
中林遺跡 大八木遺跡 小八木遺跡 正観寺遺跡 日高遺跡 天王前遺跡 下之城村東遺跡 下之城条
里遺跡 経済連敷地内遺跡 新保遺跡 矢中遺跡

(註4) 石田川式 松島栄治「石田川遺跡調査報告」1968年

生川遺跡住居址一覧表

長軸	短軸	面積(m ²)	主 軸	柱 穴	貯 藏 穴	(伊) 及び カマド位置	時 期	
							柱 穴	貯 藏 穴
1	3.27	—	N-83°-E	1		東壁中央南寄り	鬼高II	温井V
2	2.90	2.57	E-39°-S	—		東壁中央南寄り	鬼高	石田川の口縁
3	3.48	2.80	E-23°-S	—		東壁中央南寄り	石田川の脚部が出土しているが鬼高期と考えられる	
4	4.00	4.00	E-21°-S	—	左右 椅輪	壁中央南寄り	奈良	
5	2.85	2.25	E-29°-S	2		東壁中央南寄り	平安	
6		3.13		—		東壁	鬼高	住居址中央部に袋状土坑あり
7		2.26	N-66°-E	—		東壁中央南寄り	平安	
8	3.66	2.40	E-19°-S	1	右端	東壁中央南寄り	平安	
9	3.50		E-33°-S	—		東壁中央南寄り	平安	
10	3.00	2.20	E-21°-S	—		東壁中央南寄り	平安	
11	5.00	3.32	E-15°-S	—	南東コーナー	東壁中央南寄り	平安	
12	3.76	2.90	E-14°-S	—		東壁中央南寄り	古墳	
13		2.83	E-12°-S	—		東壁	鬼高	
14	4.50	3.47	E-14°-S	4		東壁中央南寄り	奈良～平安	
15			E-17°-S	1		東壁	鬼高	
16	4.16	4.12	17.13	N-87°-E	2	南東コーナー	東壁中央南寄り	鬼高
17			E-0°	—			鬼I	
18		4.52	E-0°	—		東壁	平安	
19	4.20		E-6°-S	—			石田川	
20			E-6°-S	—		東壁	平安	

*住居址の主軸方向はカマドの方向を主軸とした。カマドの不明なものについては、住居址の掘り込み方向に従う。

生川遺跡出土遺物観察表 (1)

法量の()は推定値

出土位置	種類	法量(cm)	胎土・焼成・色調	器形の特徴	成・繋形の特徴	遺存・備考
1H-1	环	口: (11.4) 高: 3.7	砂粒混入・堅緻 褐色	底部は丸底で外壁を持ち口縁部は外反する。	外面: 口縁部は横ナギ、底部は窓削り。 内面: 口縁部横ナギ、底部付近直削り後ナギ。	2/3残
1H-2	环	口: (14.8) 底: 6.8 高: 4.7	白色砂粒混入 やや軟 褐色	体部は内湾しながら立ち口縁部で外反する。	外面: 口縁部ナギ、底部回転し切り後ナギ。 底部に植物繊維痕。 内面: 回転ナギ。	1/2
1H-3	小型甌	口: 13.5 底: 13.9 高: 16.8	砂粒を多量に混入 堅緻 赤褐色	底は器厚な作りで確かに平底を呈す。胴上半部に最大径を持つ。	外面: 口縁部横ナギ、胴部は底→口方向窓削り。 内面: 口縁横ナギ、胴部横方向窓ナギ、窓あて直削り。	完形
1H-4	小型甌	口: 13.5 底: 13.6 高: 18.4	砂粒多量に混入 やや軟 暗赤褐色	底は器厚な作りで確かに平底を呈す。胴中位に最大径を持つ。	外面: 口縁部横ナギ、胴部は底→口方向窓削り。 内面: 口縁部横ナギ、胴部横方向窓ナギ。	1/2残
1H-5	甌	口: 16.5 底: 15.0	砂礫混入 良 褐色	口縁に最大径を持ち縁部は丸い。胴部は底から腹に渡る。口縁部に押さえ。	外面: 窓: 口縁は横ナギ、胴部は口→裏方窓削り。 内面: 口縁横ナギ、底部窓ナギあて直削り。	底部欠損
1H-6	甌	口: 20.6 底: 17.1	砂礫を多量に含む 良 褐色	口縁は強く外反し最大径を持つ。口縁部に沈穂あり。胴上半部に最大径を持ち、胴下半部に輪状剥離。	外面: 口縁部横ナギ、胴部口→底方向窓削り。 内面: 口縁横ナギ。	下部欠
1H-7	甌	口: 22.8 底: 17.1	砂粒を多量に混入 良 黄褐色	口縁は器厚で強く外反し最大径を持つ。胴部の最大径は上半部にある。	外面: 口縁部横ナギ、口→底方向窓削り、腹部に窓あて直削り。 内面: 口縁横ナギ、底部窓ナギ。	胴上半部
1H-8	甌	口: 22.7 底: 17.6	砂粒多量に混入 良 褐色	口縁部は強く外反し最大径を持つ。ほぼ均一した器内で輪部に窓を示す。窓は直線的。	外面: 口縁部横ナギ、胴部窓ナギ。	胴上半部
1H-9	甌	口: (17.0)	砂粒を多量に含む 良 赤褐色	胴部を多量に含む良 砂粒を多量に含む良 赤褐色	胴中央から下半部は均一の厚みを持つ。胴は窓みを持ち立つ。	外面: 腹内直削り。 内面: 横ナギ。
1H-10	甌	口: 25.8 底: 21.0 高: 32.4	砂粒を多量に含む 良 褐色	器厚の口縁部は強く外反し胴部に窓みを持つ。胴上位に最大径あり。単孔の底と思われる。	外面: 底→口方向窓削り、口縁横ナギ、胴下半部に窓付着。 内面: 口縁部横ナギ、窓置ナギ、底部窓ナギ。	ほぼ完形
1H-11	甌	口: 20.8 底: 18.4 高: 3.6 重: 36.7	砂粒を多量に混入 良 赤褐色	口縁部が外反し最大径を持つ。底部は重心から輪部を含む最大径は中位上半部にある。	外面: 口縁部横ナギ、胴部は底→口方向窓削り。 内面: 口縁部横ナギ、窓置ナギあて直削り。	ほぼ完形
1H-12	甌	口: 21.5 底: 18.6 高: 7.7 重: 37.0	粗雑混入 良 暗褐色	口縁部は器厚で強く外反し最大径を持つ。胴部は僅かな窓みを持つ。底部は平底。口縁部に沈穂を残す。	外面: 口縁部は横ナギ、胴部は底→口方向窓削り、縁部付近は窓→底方向窓削り。 内面: 口縁部横ナギ、胴部ナギ。	ほぼ完形
2H-1	甌	口: (12.8)	砂粒を多量に含む 良 褐色	口縁部は肥厚し、内面に弱い凹部を施す。	外面: 口縁部ナギ、肩部肩毛目1単位に12本。 内面: 口縁横ナギ、肩部肩毛目直削り。	口~肩部のみ
3H-1	甌	肩台部: 5.4	砂粒を多量に含む 良 褐色	肩部と肩台部の接合部分明瞭。 肩台部は粗い施で強きられ、底部は肩台部の補充粘土が占める。	外面: 肩下部から肩台部の上部に連続する肩毛目は1単位13本。 内面: 肩部・肩台部付近に窓ナギ。 窓はによる極度の浅削れ。	肩台部のみ
4H-1	环	口: 12.5 高: 2.5	砂粒を多量に含む 良 暗褐色	口縁部は直立し全体は内湾し並列丸底。	外面: 口縁部横ナギ体部直削り。 内面: 口縁部横ナギ直削り。	口縁1/4残
4H-2	环	口: 12.4 底: 8.0 高: 4.2	白色砂粒を混入 堅緻 灰白色	体部底辺に開き口縁で僅かに窓。	外面: 口縁部横ナギ直削り。	1/3残
4H-3	甌	口: (21.6) 底: 20.9	砂粒・機械入 堅緻・赤褐色	口縁部は外反し最大径を有す。 器内は窓。	外面: 口縁部横ナギ直削り。 内面: 口縁部横ナギ直削り。	口~胴1/3残
4H-4	甌	口: (20.6) 底: (4.3) 高: (29.1)	砂粒を多量に含む 堅緻 褐色	「コ」字抜口縁を窓設ける甌。 器内に最大径を持つ。器内は窓。	外面: 口縁部横ナギ、側→底方向窓削り。 底部は平底。 内面: 口縁部横ナギ、胴部横方向窓ナギ。	1/2残
4H-5	甌	口: (21.5)	細砂・機械入 堅緻・暗褐色	口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面: 口縁部横ナギ、肩部肩毛目1単位13本。 内面: 口縁部横ナギ、肩部肩毛目直削り。	口~胴1/4残
4H-6	甌	口: (17.0)	長石・粗砂混入 堅緻・淡褐色	口縁部は肥厚し、内壁は比較的窓。	外面: 口縁部横ナギ、肩部肩毛目1単位13本。 内面: 口縁部横ナギ、肩部肩毛目直削り。	口縁部のみ

生川遺跡出土遺物観察表（2）

法量の（ ）は推定値

出土位置	種類	法量(cm)	胎土・成形・色調	器 形 の 特 徴	式・整 形 の 特 徴	法量の（ ）は推定値	遺存・参考
5H-1	壺 高台付	口： 12.2 底： 6.5 高： 3.4	粗密 堅密 灰白色	底部中央から縦やかに立ち上がり全体は大きく内湾しながら口縁部は外反する。	外縁： 縫は内曲上半部のみ残る。高台は張り付け、底部は回転式切り。横げきによる地輪、内外面凹凸なし。	口縁の1部欠	
5H-2	壺 高台付 土師質	口： 14.6 底： 6.8 高： 4.8	砂粒を多量に混入 やや軟 塵	全体は大きく内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸味を持つ。	外縁： 回転式アセ形、底面糸切り痕、高台部に剥がれが見られる。 内面： 全周に丸みアセ後黒色処理している。	高台のみ	
5H-3	环	口： 10.3 底： 5.0 高： 3.6	砂粒を多量に含む む・軟 褐色	底い体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸味を持つ。底部回転式切り痕。	内外面横ナデ。ヒビ割れあり。	口縫2ヶ所欠損	
5H-4	羽釜	口： (22.0) 脚 (27.3)	砂粒を含む 良	丸いのある腹部から縦やかに内湾する。口縁部、口唇部は平に削られ、脚は四角丸みを呈す。	内外面口縫脚横ナデ、脚から下は左上→右下斜方向剥取り。腹付着。	ロ～1/3残	
5H-5	羽釜	口： (22.0) 脚 (24.1)	砂粒を含む 良	砂粒は直立。口唇部は平に削られ、脚は短く角になっている。	外縁： 口縫脚ナデ、脚部左上→右下方斜削り。 内面： 植ナデ。	ロ～脚部1/3弱残	
5H-6	羽釜	口： (22.5) 脚 (28.0)	砂粒を多量に含む やや軟 暗褐色	口縫部は内縮、胸部が丸みを持ち、脚は短く三角形を呈す。口縁部は平に削られている。	外縁： 口縫脚横ナデ、脚部左上→右下方斜削り。 内面： 内曲全体横ナデ。	ロ～脚1/3残	
5H-7	羽釜	口： (26.0) 脚 (27.6)	砂粒と塵を含む 良・褐色	口縫部は内縮口唇部は直立。脚部は平。脚は幅広い三角形。	外縁： 口縫横ナデ、脚右上→左下方斜削り。 内面： 内曲全体横ナデ。	ロ～脚1/4弱残	
5H-8	羽釜	口： 21.7 脚 (25.2)	砂粒・塵を混入 良・暗褐色	口縫部は内縮し脚部は平に削られれている。	外縁： 口縫横ナデ、右下→左上方斜削り。 内面： 脚方ナデ。	脚部1/3欠	
7H-1	环	口： 14.0 底： 7.3 高： 4.0	砂粒を含む 良・褐色	体部は直線的に引き、口縁部は強く外反する。	内外面回転ナデ、底部は半切りで上げ底を呈す。	2/3残	
7H-2	羽釜	口： (18.8) 脚 (22.0)	砂粒混入 堅密・暗褐色	口縫部内湾、口唇部は直に平行され脚部は丸みを持つ。	外縁： 口縫横ナデ、脚部横削り。 内面： 全体横ナデ。	ロ～脚1/3残	
7H-3	环	口： (13.8) 高： 5.5	砂粒混入 堅密・暗褐色	底一部部は緩やかな曲線を描いて立ち上がり口縫部に至る。	外縁： 口縫横ナデ底へ体部は直面、保付有。 内面： 口縫は対開型、体部に右上がり堆文有。	1/3残	
8H-1	环	口： 10.6 底： 6.6 高： 3.1	砂粒を含む 良・褐色	体部は内湾しながら立ち口縫部は強め外反する。口縫部は丸味を持つ。	外縁： 寛削り後ナデ、底部は回転式切り。 内面： 回転ナデ、底部中央にヒビ割れが見られる。	2/3残	
9H-1	环 锁匙器	口： (11.3) 底： (6.0) 高： 3.1	砂粒混入 堅密 糊質灰	体部は内湾し口縫部は強く外反する。	外縁： 回転ナデ。底部は回転式切り。 内面： 回転ナデ、内外面糊付有。	1/3残	
9H-2	脚部	底： 11.8	砂粒を含む 良	全体に丈が短く脚部が強く湾曲し脚部は厚い。	外縁： 回転ナデ。指揮えあり。 内面： 体と脚部の接合部に半切り痕を残す。脚部にも接合痕を残す。全体横ナデ。	脚部	
9H-3	羽釜	口： (30.0) 脚 (32.7)	砂粒・塵を混入 良・褐色	口縫は僅かに内縮、口唇部は平。脚の部分に最大径を有す。	外縁： 口縫横ナデ、脚部口→直方向直削。 内面： 全体横ナデ。	ロ～脚1/8残	
10H-1	环	口： 10.0 底： 5.1 高： 2.5	砂粒を含む 良・褐色	底中央部に凹を持ち体部は内湾しながら立ち上がる。	外縁： 回転式切り底。内外面回転ナデ。一部に復付着。	完形	
10H-2	环	口： 10.4 底： 5.4 高： 2.9	砂粒を含む 良・褐色	体部は内湾しながら立ち上がり口縫部に至る。	外縁： 回転式切り底。内外面回転ナデ。		
10H-3	环	口： 9.9 底： 5.0 高： 2.7	砂粒を含む 良	底部中央に凹を持ち体部は内湾しながら立ち上がる。	外縁： 回転式切り底。内外面回転ナデ。	口縫2ヶ所欠	
11H-1	壺 高台付	口： 9.8 底： 5.0 高： 3.0	砂粒を多量に含む 軟 褐色	体部は底部から口縫方向に強く内湾しながら立ち口縫部が内縫する。	外縁： 寛削り。底に粘土の貼付けが見られる。 内面： 回転ナデ。内外面糊付有。	口縫1/2欠	
11H-2	壺 高台付	口： 10.4 底： 6.0 高： 3.8	赤褐色砂粒混入 良・軟 褐色	器高な高台部は貼付け。体部は内湾しながら立ち上がり口縫部で強め外反する。	外縁： 回転式切り底の底部に高台部が強め付付けられている。内外面「寒ナナデ」。	完形	
11H-3	壺 高台付	口： (13.8) 底： 7.1 高： 4.6	砂粒と塵混入 堅密 灰褐色	器厚な体部は大きく内湾しながら立ち上がる。脚部は僅かに外反する。高台「ハ」字状に聞く。	外縁： 体部内外面ともクロクロ模様、高台は貼付け、内外面回転ナデ。上げ底。	完形	

生川遺跡出土遺物観察表（3）

法量の（ ）は推定値

出土位置	種類	法量(cm)	胎土・焼成・色調	器形の特徴	成・整形の特徴	法量の（ ）は推定値
11H-4	瓶 須恵器	口：(15.0) 底：7.5 高：5.1	3mmの良石が混入。 蓋：7.5 基盤：5.1 底：灰白色	体部は緩く内湾し少し偏平な器形を呈す。しっかりした高台を持つ。	外面：丁寧な水引が見られる。 内面：縦模ナデ。刷毛による底地が1種類から底部付近まで見られる。	胸～脚部
11H-5	高杯	体：14.4 底：12.2 やや軟	白色砂粒を含む 蓋：12.2 やや軟	口縁を欠く。質はやや脆らみを含む。縦模は「ハ」字状に残る。	外面：横方向削り、体の一部に復付窓。 内面：底面と脚内面に複合痕残す。	口縫部欠
11H-6	甕	口：(15.6)	砂粒を多量に含む 底：13.4 蓋：6.7 底：灰白色	口縫部の屈曲は比較的強い。 口縫部は丸味を持つ。	外面：口縫模ナデ、肩部刷毛目1單位1本。 内面：口縫模ナデ、底面擦拌と底めぐる。	口→脚部のみ
12H-1	瓶 須恵器	口：16.8 底：8.2 高：6.7	砂粒を多量に混入 蓋：8.2 基盤：6.7 底：灰白色	体部は内湾しながら立ち上がり 口縫部は直線的に外彌する。高台付窓は丸味を持つ。	外面：全体に丁寧な水引が見られる。口縫部に複合痕1ヶ所見られる。 内面：縦模ナデ、底地が僅か見られる。	1/2瓶
12H-2	小型甕	口：14.8 底：11.4 蓋：11.2 底：褐褐色	砂粒を多量に混入 蓋：11.4 基盤：11.2 底：褐褐色	脚は球形、口縫は直線的に僅か外彌。口縫部は丸味。僅かに上口縫。底部赤褐色。	外面：口縫模ナデ、不定方向削削り、刷毛目状の削り痕が残る。復付窓跡あり。 内面：口縫模ナデ、被は無い。底部は尾ナデ。	完形
12H-3	甕 高台付	口：11.0 底：4.5 蓋：(3.8) 底：黄褐色	砂粒を多量に混入 蓋：4.5 基盤：(3.8) 底：黄褐色	内湾しながら立ち上がった体部 は口縫部で僅かに間に立つ。	外面：内外四ナデ、深い削り底あり。復付窓。 内面：内面黒色処理。	高台脚欠損
12H-4	脚部	底：(9.0)	砂粒を含む、良 によい度	甕の右部「ハ」字状に開き全体 に支足く、相手でく湧曲、厚い 脚部。	外番：横ナデ。 内面：縦模ナデ。底部中央に凹が見られる。	右部の1/2 残
12H-5	甕	口：(14.0)	砂粒を含む 底：9.6 蓋：6.6 底：褐褐色	内縫を持ち口縫は外彌。頂上手 縫部に上口縫で施してある。	外面：口縫模ナデ、体部から底部は荒削り。 内面：口縫模荒調整、復付窓。	1/3瓶
13H-1	脚部	底：8.6	砂粒混入、良 暗赤褐色	次の昇る脚部では「ハ」字状 に開く。脚部は厚い。	外番：内面回転ナデ。粘土付着。	台部のみ
13H-2	小型甕	口：(11.0)	甕と砂粒較強入 蓋：6.1 底：3.6 底：褐褐色	脚部は上半部に大径を持つ。 底部は直線的に立ち上がり、口縫部は僅か外彌する。	外面：斜方削削り複ナデ。 内面：施縫部、被ナデ内外面に多量の復付窓。	脚部1/2残
14H-1	甕	口：(14.5)	砂粒を僅か含む 底：6.9 蓋：3.6 底：褐褐色	底部は厚唇、体部は内湾、口縫 は直線的に立ち上げる部で内彌。	外面：回転ナデ、底部は素切り後細い窓です り残す。 内面：回転ナデ。	1/3瓶
14H-2	甕	口：10.5 底：6.1 蓋：3.6 底：褐褐色	砂粒多量に混入 蓋：6.1 底：6.1 底：褐褐色	底部は厚唇、体部は内湾、口縫 は直線的に立ち上げる部で内彌。	外面：口縫部は複ナデ、体部は削削り。 内面：口縫部は複ナデ、底～底部はナデ。	口縫部2/3 欠
14H-3	甕	口：(13.0)	甕と砂粒を含む 底：6.6 蓋：3.8 底：青灰色	体部は内湾気味に立ち上がり、 口縫部は丸味を持つ。	外面：回転ナデ、底部は素切り窓。復付窓。 内面：回転ナデ。	1/3瓶
16H-1	甕	口：(13.0) (6.7)	砂粒約含む 底：4.1 底：褐褐色	底部より大きく開きながら立ち 上がった体部の半位に段を持ち 口縫部が外反する。	外面：回転ナデ、底部は回転糸切り。 内面：回転ナデ。	1/4瓶
17H-1	甕	口：14.0 底：4.8 蓋：4.1 底：褐褐色	砂粒を僅か含む 底：4.8 蓋：4.1 底：褐褐色	内縫を持ち、口縫部は外傾する。	外面：口縫模ナデ、体～底部は削削り。 内面：回転糸切り。	4/5瓶
17H-2	甕	口：13.3 底：4.6 蓋：4.6 底：褐褐色	砂粒を含む 底：4.6 蓋：4.6 底：褐褐色	内縫を持ち、口縫部は外傾する。	外面：口縫模ナデ、体～底部は削削り。 内面：口縫模調整、脚部に右上り堆文を施す。	完形 焦付窓。
17H-3	甕	口：(14.1)	砂粒を含む 底：4.7 蓋：4.7 底：褐褐色	内縫を持ち、口縫部は外傾する。	外面：底部から体部削削り。 内面：口縫部は差調整、脚部に右上り堆文 が施されている。	底部欠
17H-4	甕	口：9.8 底：6.3 蓋：6.3 底：褐褐色	砂粒混入 底：6.3 蓋：6.3 底：褐褐色	脚部は球形を呈し口縫部は直線 状に立つ。	外番：口縫模ナデ、頭部差調整、体～底部削削。 内面：口縫模ナデ脚部は複ナデ。一部に左上 りの堆文が施されている。	口～底1/3 残
17H-5	甕	口：16.6 底：7.8 蓋：5.8 底：褐褐色	砂粒混入、良 底：7.8 蓋：5.8 底：褐褐色	口縫は厚唇な作りで脚部は張り を持ち良い内縫を有す。	外面：口縫模ナデ、口～底方向削削り。 内面：口縫模ナデ、脚部差方向削ナデ。	13～脚上半 1/3瓶
17H-6	甕	口：(13.0)	砂粒を多量に含む 底：良 蓋：良 底：褐褐色	口縫部と脚部の屈曲は比較的強 い。(S字口縫)	外面：口縫模ナデ、肩部刷毛目、1單位1本。 内面：口縫模ナデ、脚部拘束痕あり。	13縫の一部 のみ
17H-7	脚部	接合部 4.7	砂粒を含む 蓋：基盤 底：褐褐色	脚部と脚部の接合部分で刷毛 目明瞭。	外面：脚下部から脚部部にかけての刷毛目 1単位13本。 内面：接合部拘束され、極いナデ。	台部のみ
18H-1	甕	口：15.0 底：7.8 蓋：5.8 底：褐褐色	砂粒を多量に含む 底：7.8 蓋：5.8 底：褐褐色	体部は内湾しながら立ち上がり 口縫部は厚く丸味を持つ。上げ 窓。	外面：回転ナデ。窓古は粘付け。接合部はや や施ナデ調整を施す。 内面：回転ナデ。	完形

生川遺跡出土遺物観察表 (4)

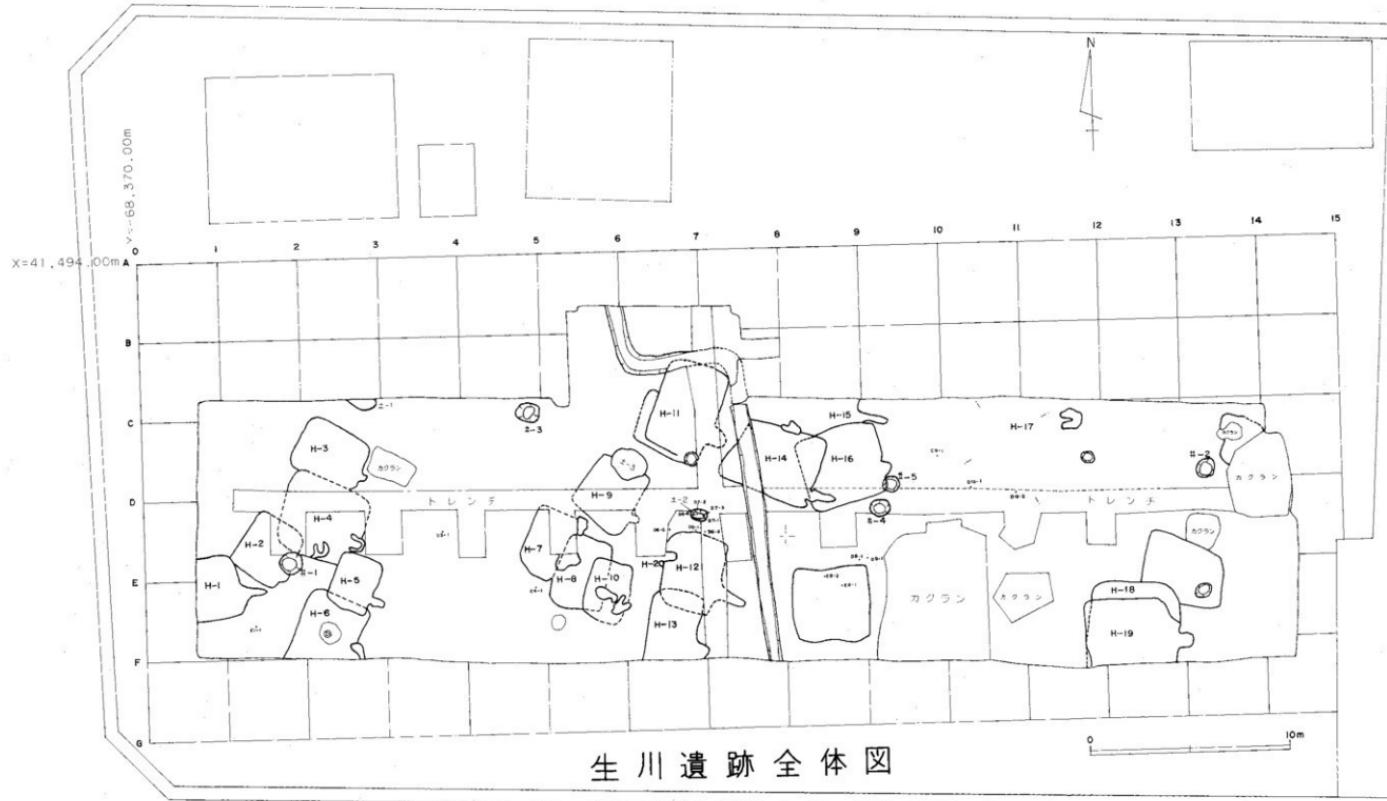
法量の()は推定値

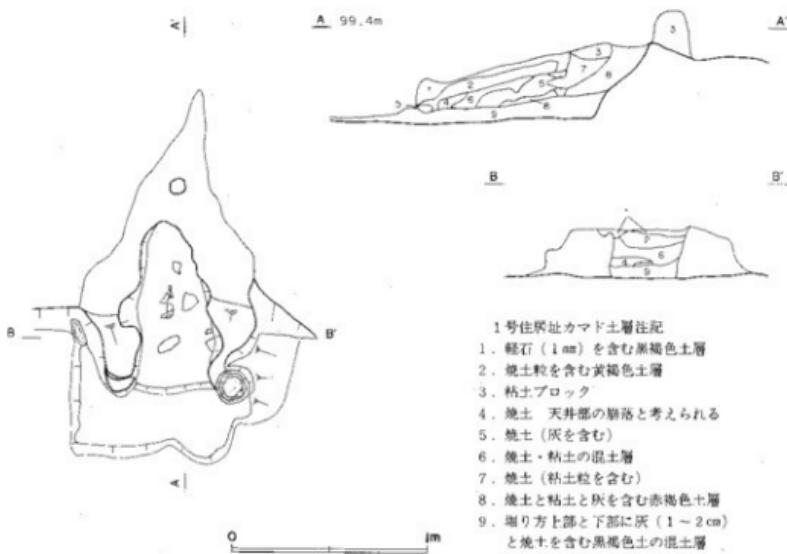
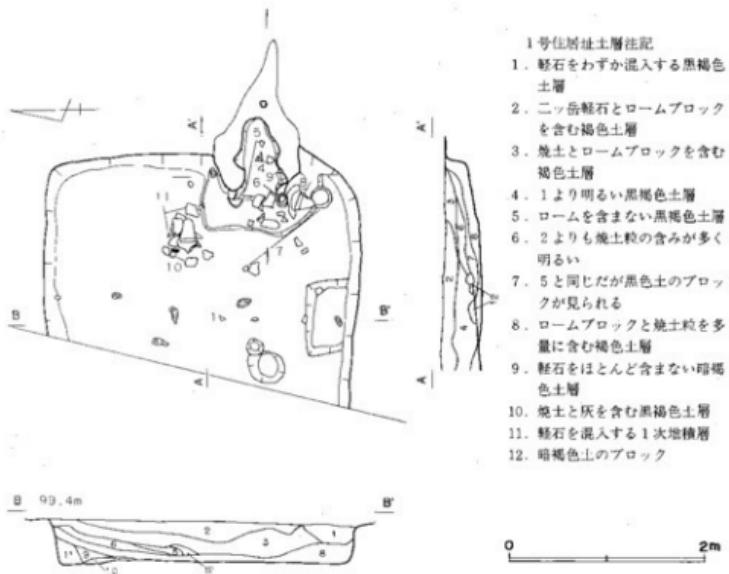
出土位置	種類	法量(cm)	胎土・他流・色調	器 形 の 特 殊	成・整 形 の 特 殊	遺存・備考
18H-2	环	口：8.4 底：4.9 高：1.6 径	粗砂を含む 軟	底部凹起を切り底。体部は細い 筋筋で内湾しながら縦に走る。	内外面凹起ナデ。	完形
18H-3	环	口：9.2 底：5.4 高：1.8 径	細砂多量に混入 軟	底部凹起を切り底。体部は細い 筋筋で内湾しながら縦に走る。	内外面凹起ナデ。	完形
18H-4	环	口：7.5 底：4.3 高：2.8 径	粗砂を多量に含む 良	器内は厚い。口縁は厚く丸味を持ち、体部は内湾気味に立つ。	内外面凹起ナデ、底部糸切り後観ナデ。	完形
18H-5	环	口：8.6 底：5.0 高：1.9 径	粗砂と粗砂を含む 軟	底部は僅かに上げた。底部と体部の境に段を持つ。	外曲・凹起糸切り底。内外面凹起ナデ。	口縁の一部欠
18H-6	环	口：9.9 底：5.1 高：2.1 径	粗砂を含む 紫灰褐色	器内は厚く、体部は直線的に開き口縁部は丸味を持つ。中央部が僅か盛り上がる。	外曲・凹起糸切り底。 内曲：凹起ナデ。	口縁の一部欠
18H-7	环	口：13.7 底：8.9 高：2.8 径	細砂多量に混入 堅致 赤褐色	底部に厚みを持ち、側～口縁は薄くなる。平底。胴は内湾気味に立ち口縁で僅かに内湾する。	外曲：口縫は荒整後丁寧な横ナデ、脚部と底部は荒削り。 内曲：口縫横ナデ。底部は荒削り。	口縫部1/3欠
18H-8	环	口：(14.2) 底：6.0 高：4.3 径	(粗砂を含む 軟 黒褐色)	体部は内湾しながら立ち上がり口縁部は熱反する。	外曲：凹起ナデ、底部は凹起糸切り底。 内曲：凹起ナデ。	1/3残
18H-9	环	口：8.6 底：4.0 高：2.8 径	粗砂を含む 軟	内湾気味の体部は口縫部で外反し、口唇部は強く外傾する。	外曲：内外面凹起ナデ底部に粘土の貼り付けが見られる。	ほぼ完形
19H-1	环	口：12.4 底：5.5 高：5.1 径	赤味・白色砂松底 火・堅致・黄緑	底～体部に掛けて緩やかな内湾で半月形に膨らむ。器内は厚い。	外曲：口縫横ナデ、底～体部は荒削り。 内曲：荒ナデ、底上半部に縞文あり。	完形
19H-2	环	口：14.2 底：(4.7) 高：4.0 径	僅少砂混入 堅致・滑	口縫はやや内湾し直立する。口縫と体部の境に棱を有す。	外曲：口縫横ナデ底部荒削り。 内曲：口縫部横ナデ体部ナデ。	1/2残
19H-3	小型盤	口：16.0 底：16.6 高：12.5 径	砂松混入 良 暗褐色	口縫部は外反し・胴部は球形を呈す。底部は丸底。	外曲：口縫部横滑り、胴部巻削り。 内曲：頭部には荒ナデが顯著である。	2/3残
19H-4	盤	口：(16.8) 底：(19.5)	砂松混入 堅致 赤色	ほぼ均一した厚みを持ち、口縫は「く」字状に外反する。口縫部は丸い。胴は球形を呈す。	外曲：口縫横ナデ。頭部に窓あり。 内曲：口縫横ナデ、胴部荒ナデ。	口～盤1/3残
土坑1-1	盤	口：(22.6)	砂松を含む・堅致 黄緑色	口縫部は緩くS字形に屈曲する。	外曲：口縫部横ナデ。脇部刷毛目1単位13本。 内曲：口縫部横ナデ、保付者。	口～肩部のみ
土坑2-1	碗	口：(34.5)	水青色の2～3mm の粘土を含む やや軟・滑	両縫糸切り底。体部は大きく内湾しながら立ち上がる。附け口高。	外曲：口縫ナデ盤形。 内曲：全體に荒ナデ後黑色處理されている。	口縫の一部欠
土坑2-2	碗	口：16.5	砂松を含む・良 褐色	ほぼ均一した厚みを持ち外反する。口縫部は丸味を持つ。	外曲：口縫糸方向刷毛目後横ナデを施す。 内曲：口縫部横ナデ。頭部指擦平底。	口縫部のみ
土坑2-3	盤	口：17.6	砂松を含む 24.1 良 黄褐色	口縫は「く」字状に外反し棱を有す。脚部下部が擴み底大径を持つ。底部は上げ底を呈す。	外曲：口縫部横ナデ、脇部は口～底部方向荒削り。 内曲：口縫部横ナデ、頭部窓ナデ。	ほぼ完形
井戸3-1	环	口：12.9 底：5.3 高：	後合部 後曲 5.3 良 赤褐色	口縫部に内縫を持ち強く外反する。底部は丸味や上げ底。体部は球形を呈し深みがある。	外曲：口縫糸方向刷毛目後横ナデを施す。 内曲：口縫部横ナデ、頭部指擦平底。	口縫部のみ
井戸3-2	萬	口：16.5	砂松を含む・良 褐色	口縫部は底から口縫方向にやや内湾気味に立ち上がり、体部とその境に棱を持つ。	外曲：口縫部横ナデ、脇部は口～底部方向荒削り。 内曲：口縫部横ナデ、頭部窓ナデ。	口縫部と脚 脚合部欠
C-5 グリット -1	环	口：10.0 底：5.4 高：2.8 径	高茎部の粒子を多 量に含む・軟 黄褐色	口縫部は直線的に口縫に至る。底部は糸切り切り。	外曲：体部から底茎削り。 内曲：窓ナデ後縫文が施されている。	1/3残
C-9 ブリット -1	盤	口：4.5 底：9.4	接合部：砂松を含む 良 黄褐色	「ハ」字状合部は僅か内湾気味。側との接合部が削削した両脚部。	外曲：脚合部上部は硬い刷毛目、下部は窓ナデ、1単位8本。 内曲：接合部は横方向の指擦ナデ折り返しが見られる。	ほぼ完形

生川遺跡出土遺物観察表（5）

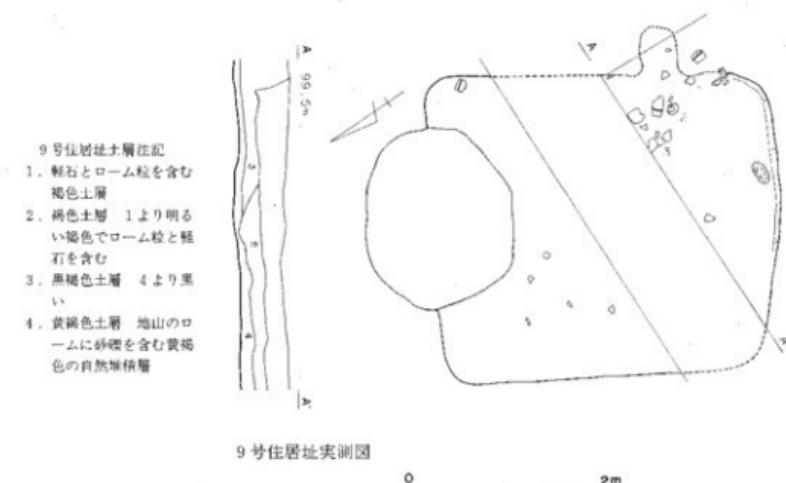
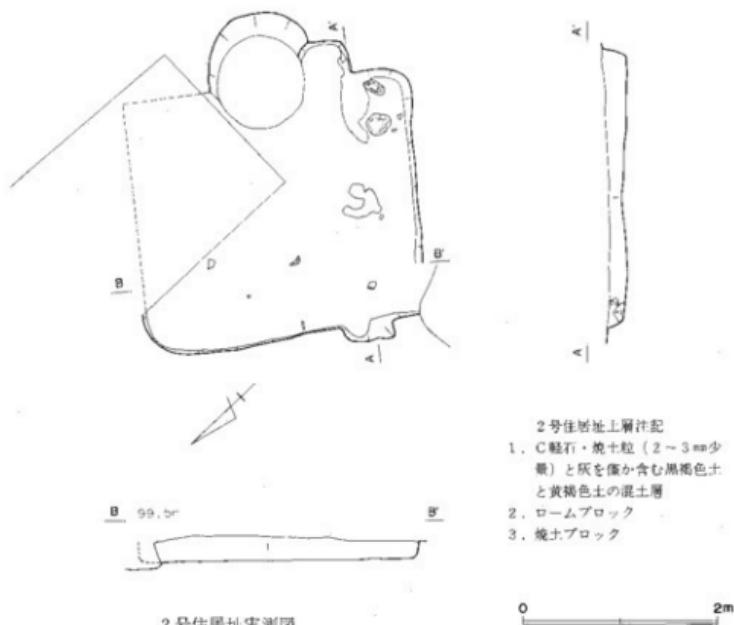
法量の（ ）は推定値

出土位置	種類	法量(cm)	地土・焼成・色調	器形の特徴	成・整 形 の 特 徴	遺存・参考
D-3 グリット -1	羽釜	口：(24.2) 胸：(28.7)	砂粒を含む 灰 褐色	口縁部は内側と口縁部は平に削 られている。肩の部分に最大径。	外面：口縁横ナデ、肩から下は左下→右上方 に向か削り。 内部：全体横ナデ。	ロ一頭部1/ 5頭
D-6 グリット -1	甕	口：(13.5) 胸：(16.9) 底：(6.2) 高：(20.3)	砂粒多量に混入 灰 赤褐色	口縁部は厚く作りで「く」字 状に外反する。胴中央に最大径 を持つ。口縁下半部に腹方向の 削毛目。	外面：ロ一底の方の裏削り後傾く横ナデ。底 下部は腹方向削り、一部に保有者。 内部：口縁部横ナデ、胴部ナデ。	1/2弱頭
D-6 グリット -2	甕	口：14.0 高：4.5	白色砂粒混入 墨 褐色	内縫を持ち口縁部は外傾する。	外面：口縁部横ナデ、底～体部は荒削り。 内部：口縫は荒調整。胴部に右上がり縞文。	完形
D-6 グリット -3	手揉土器	口：8.3 高：4.7	砂粒を多量に含む 墨 黒褐色	口縁部は直線的に立ち上り部は 丸く厚壁な作りである。	内外面全体に指印压痕が目立つ。	完形
D-6 グリット -4	甕	口：(17.7)	砂粒を含む・墨 褐色	口縁部は「く」字状で内・外縫 を有す。胴部は丸味を持つ。	外面：口縁横ナデ。胴は頭→底方向削り。 内部：口縁横ナデ・胴部削りナデ。	ロ一頭上半 1/4頭
D-6 グリット -5	三高台付	口：13.4 底：6.2 高：1.9	白色砂粒混入 墨 灰白色	高台を付した底部から直線的に 外反し、口唇部に凹る。底部は 直線状を呈す。	外面：口縁から脇部は回転ナデ、付粧縦4本。 内部：回転ナデ。体部に段差有。底部回転 直切り底。付粧縦5本が見られる。	完形
D-6 グリット -6	小型甕	口：12.4 胸：15.3 底：13.9	砂粒を含む 墨 褐色	短いロ縫部は「く」字状に開き、 底上部に最大径を持つ。底面 は直線状。	外面：口縁横ナデ、頭～胴上部削り削 離により下半部不明瞭。 内部：口縁ナデ、胴部ナデ、頭部削え目立つ	ほぼ完形
D-8 グリット -1	羽釜	口：(22.0) 胸：(27.3)	砂粒混入・墨 灰 灰白色	口縁部は内側と口縁部は平に削 られ、肩の部分に最大径を持つ。	内外面横ナデ、底付着。	ロ一頭1/4 頭
D-9 グリット -1	甕	口：10.4 底：7.0 高：3.5	砂粒を含む 墨 褐色	体部は内湾気味に立ち上がり口 縫部は僅かに外反する。	内外面回転ナデ。	口縁2/3次
D-10 グリット -1	桶	口：12.0 底：6.7	砂粒を含む 墨 褐色	体部から脇部は内湾しながら 立ち上り部は凹凸が目立つ底部 付近段々有す。	外面：口縫部押さえ、体部押さえ後荒削り。 内部：墨ナデ、荒めて底あり性と喉の中間的 部形である。	完形
D-10 グリット -2	甕 解合部	接合部底： 4.0 白部底： 5.1 黒部	砂粒混入 灰 灰白色 上部の上に墨色 黒	短い口縫部で内湾気味で「ハ」字 状に開く。脇部の接合部が削離 している。	外面：脇部上部は羽毛目、脇部は横ナデ。1 単位12本。 内部：不定方向粗い指印縫部に折り返しが 見られる。	古部のみ
D-10 グリット -3	小型甕	口：8.6	砂粒混入・墨 灰黒	「く」字状の口縫。基盤は薄い。	外面：口縫部横ナデ、胴部荒磨き。 内部：腹方向削りナデ。	古部のみ
E-1 グリット -1	小型甕	口：10.6 胸：11.1 底：11.1	墨と砂粒を含む 灰 黄褐色	口縫部は僅か外反し、胴部は球 形を呈す。底部は丸底。	外面：口縫横ナデ、胴部は指押え痕、胴削離。 内部：口縫横ナデ、胴部削り。粘土付着。底 部附近削りナデ。	口縁1/2次
E-4 グリット -1	甕 高台付	口：(14.5) 底：7.7 高：4.5	砂粒混入 やや軟 改変縫	体部は内湾しながら立ち上り 口縫部は外反する。	外面：回転ナデ。高台部は貼付け、内部は燒 付痕。 内部：回転ナデ、粘土上部に粗縫に増強している。	口縫の一部 欠
E-4 グリット -2	甕 高台付	口：15.2 底：8.0 高：5.2	砂粒混入 やや軟 改変縫	体部は僅か内湾しながら立ち上 り、口縫部で外反する。	外面：回転ナデ。高台は貼付け。 内部：回転ナデ。	口縫の一部 欠
E-4 グリット -3	甕 脇合部	接合部： 5.1	砂粒を多量に含む 墨 墨	胴部から脇合部、接合部分で削 離している。	外面：脇合部羽毛目、1単位12本。 内部：脇部上部は指押え痕が通る。他はナデ。	胴と脇部の 接合部のみ
E-8 グリット -1	脇合部		墨と砂粒を含む 墨 改変縫	脇と脇の接合部。背曲しながら 脇部は大きく開く。	外面：脇合部横ナデ、凹孔1個が穿 たれている。 内部：腹方向横ナデ後ナデ、脇一部破れ目 底。	脇部1/3次
E-8 グリット -2	甕	口：12.2 高：3.4	砂粒物混入・墨 灰	体部は幾つかに立ち上りし、口 縫部は僅かに外反。口縫部は肥厚。	外面：口縫部は横ナデ、底部は荒削り。 内部：口縫部は横ナデ、体～底部はナデ。	ほぼ完形
E-8 グリット -3	甕 高台付	口：(11.8) 底：(6.6) 高：(3.8)	赤褐色砂粒混入 灰 赤褐色	浅い高台から体部は内湾しな がら立ち上り口縫部は僅かに 外反する。	外面：回転ナデ、高台部の剥がれの下に水切 り底のがく。 内部：回転ナデ。	1/2弱頭
一頭土器	环形	口：(13.4)	砂粒物混入 墨 黑褐色	口縫形状は直線的に広がる。縫 部を有する。	外面：口縫部横ナデ、胴部荒研磨。 内部：比較的丁寧なナデ。	口縫部のみ

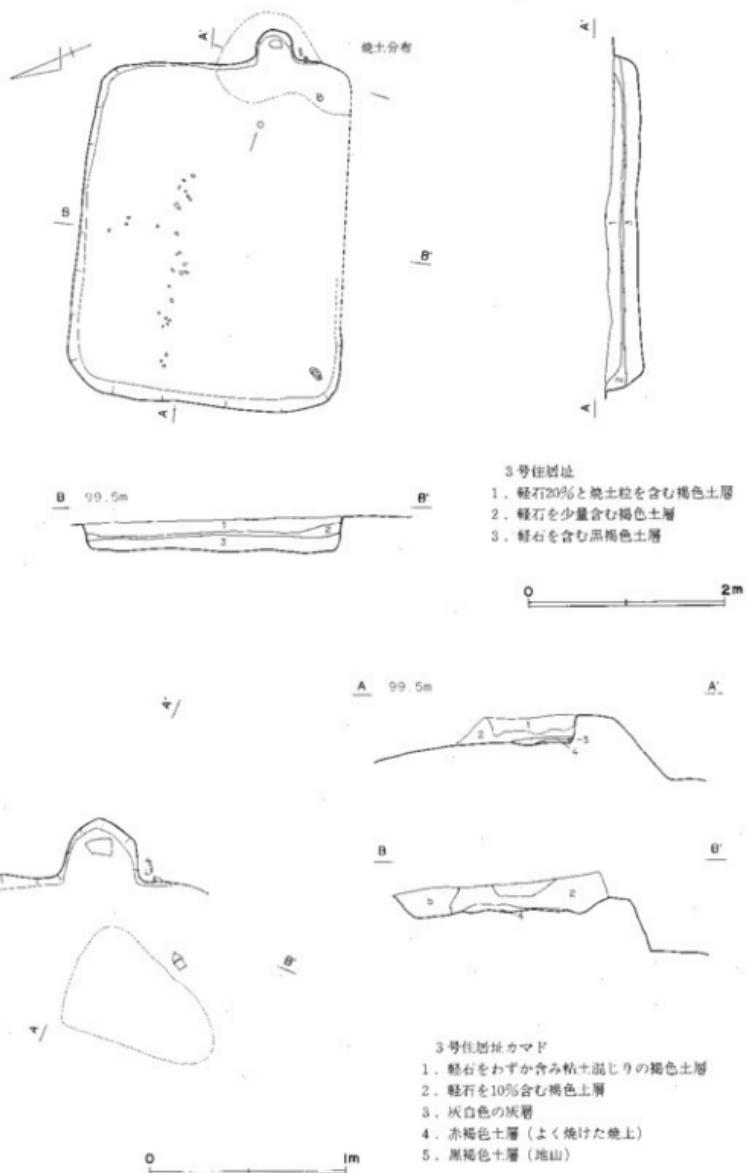




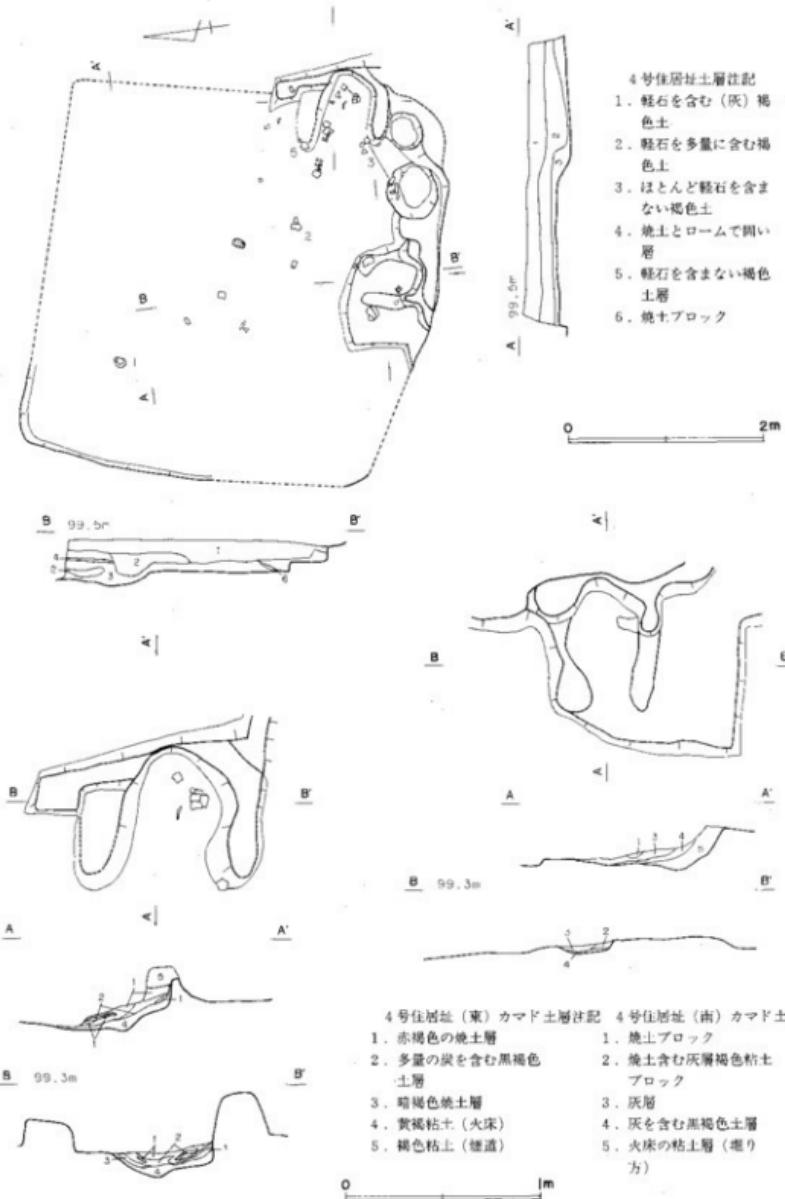
第4図 1号住居址・カマド実測図



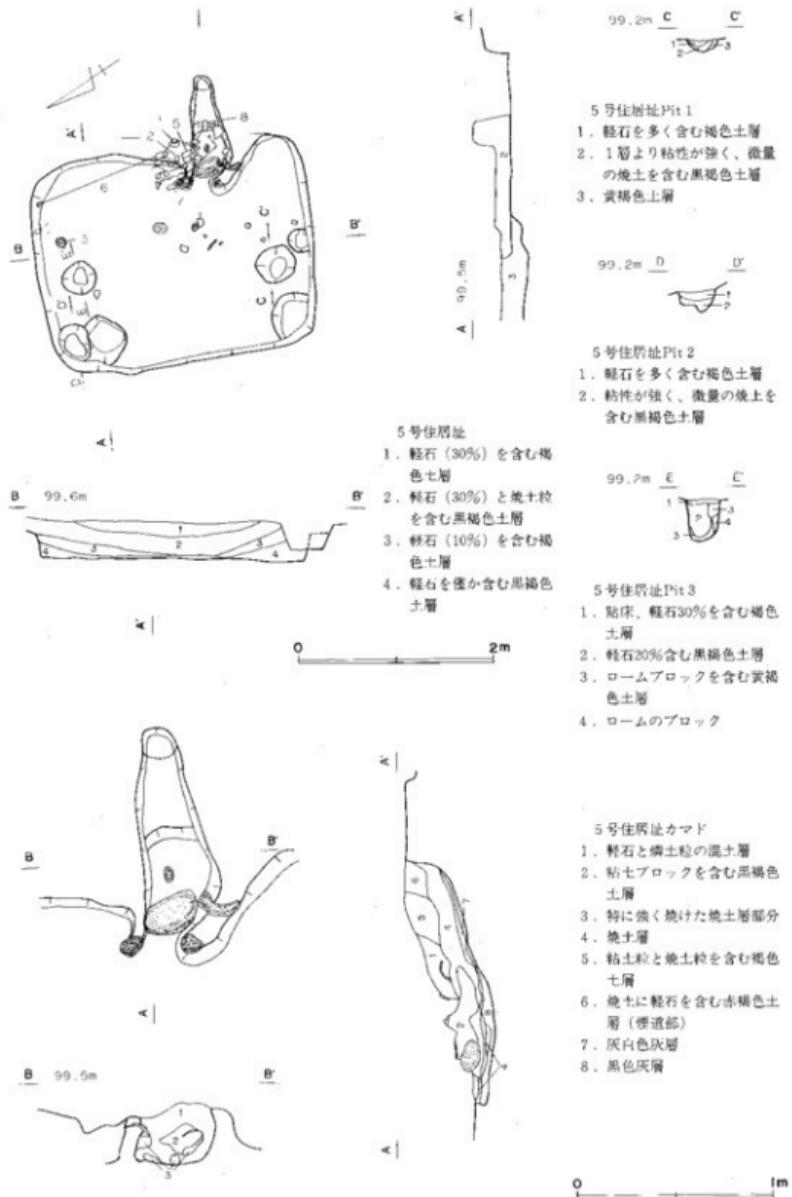
第5図 2号住居址・9号住居址実測図



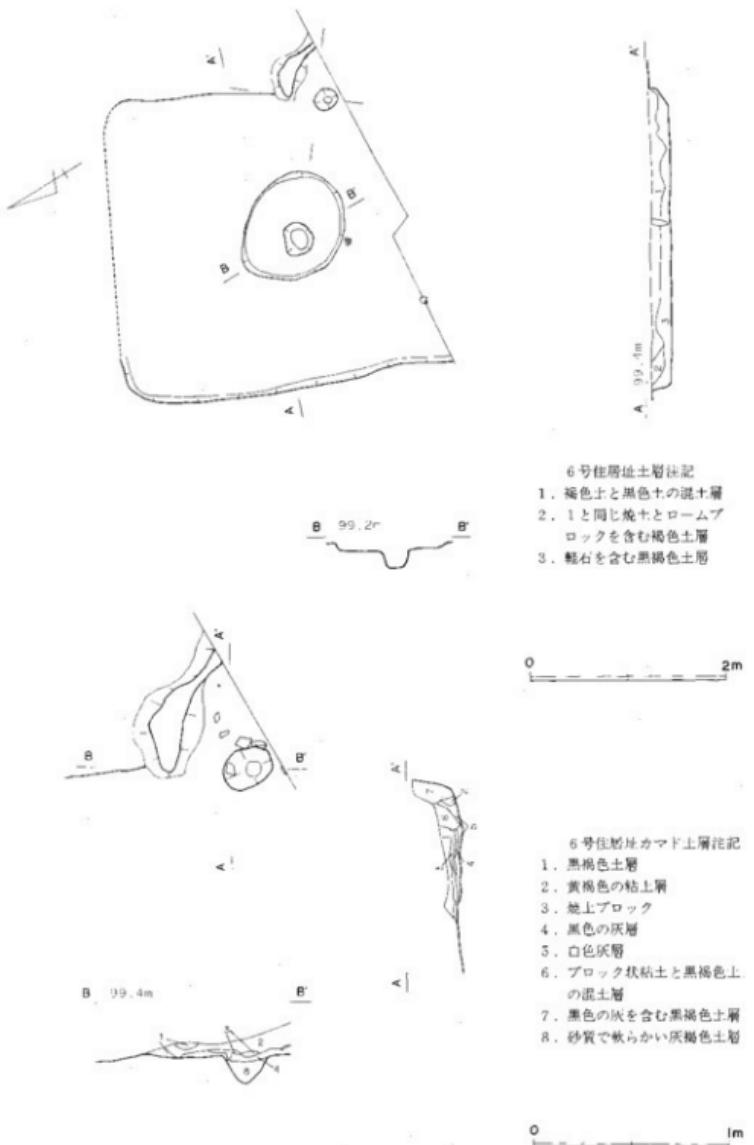
第6図 3号住居址・カマド実測図



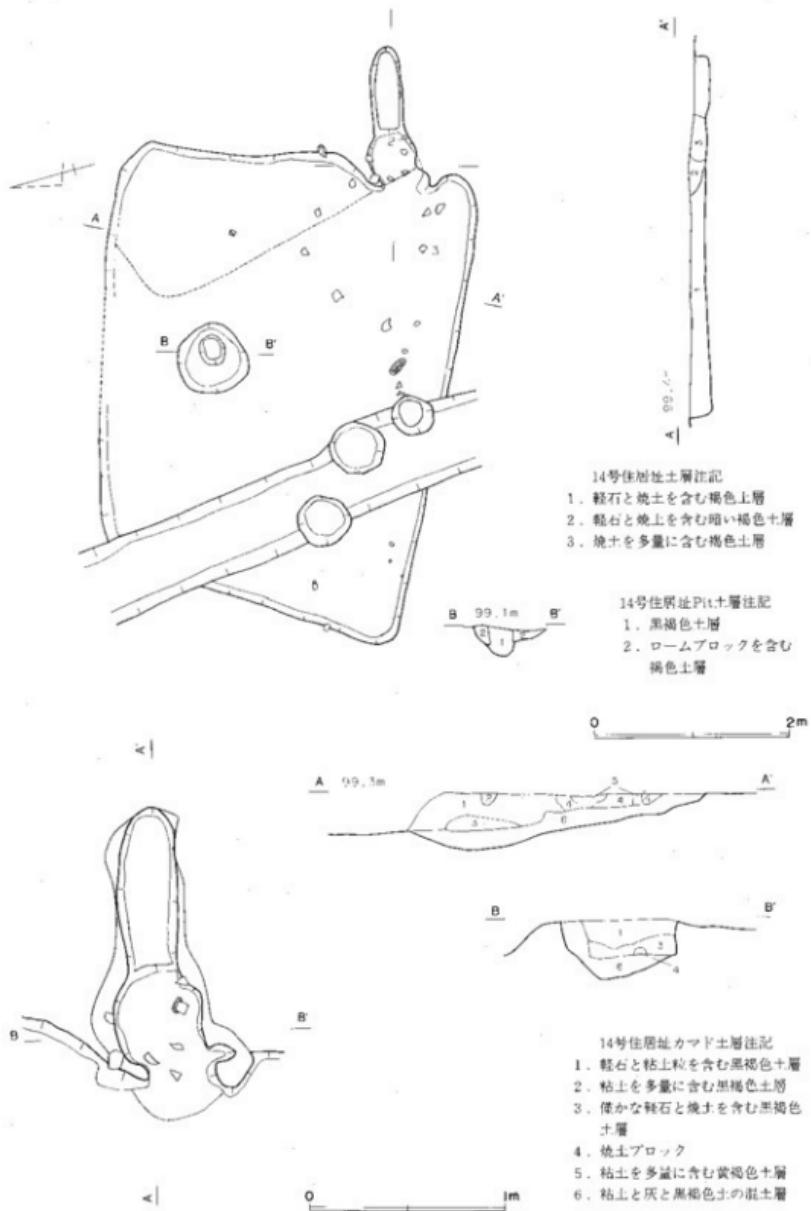
第7図 4号住居址・カマド実測図



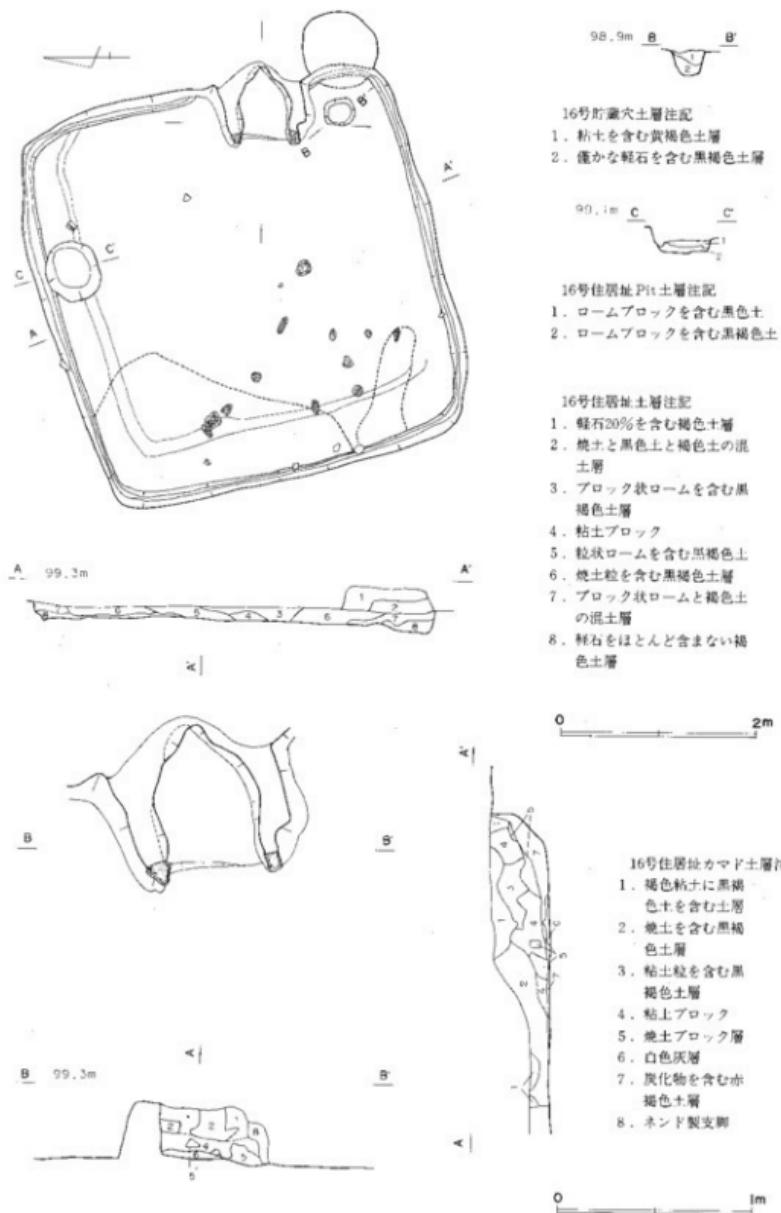
第8図 5号住居址・カマド実測図



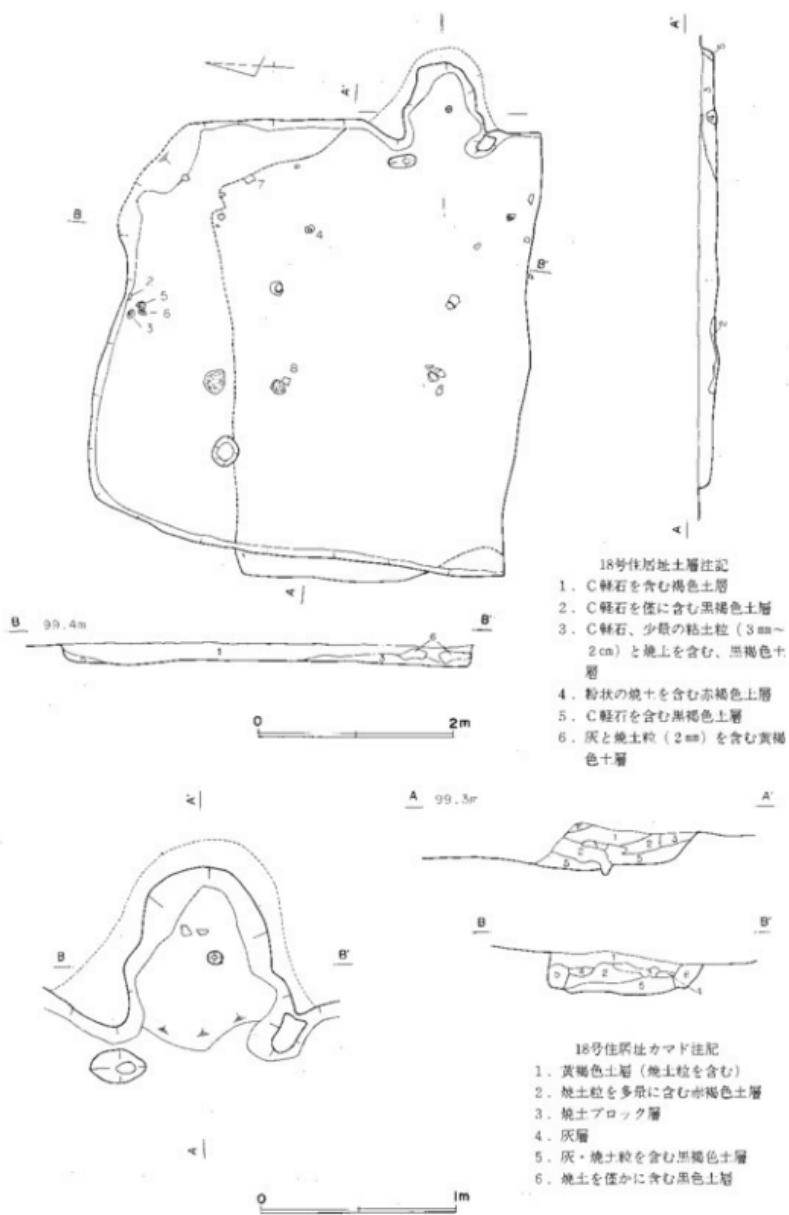
第9図 6号住居址・カマド実測図



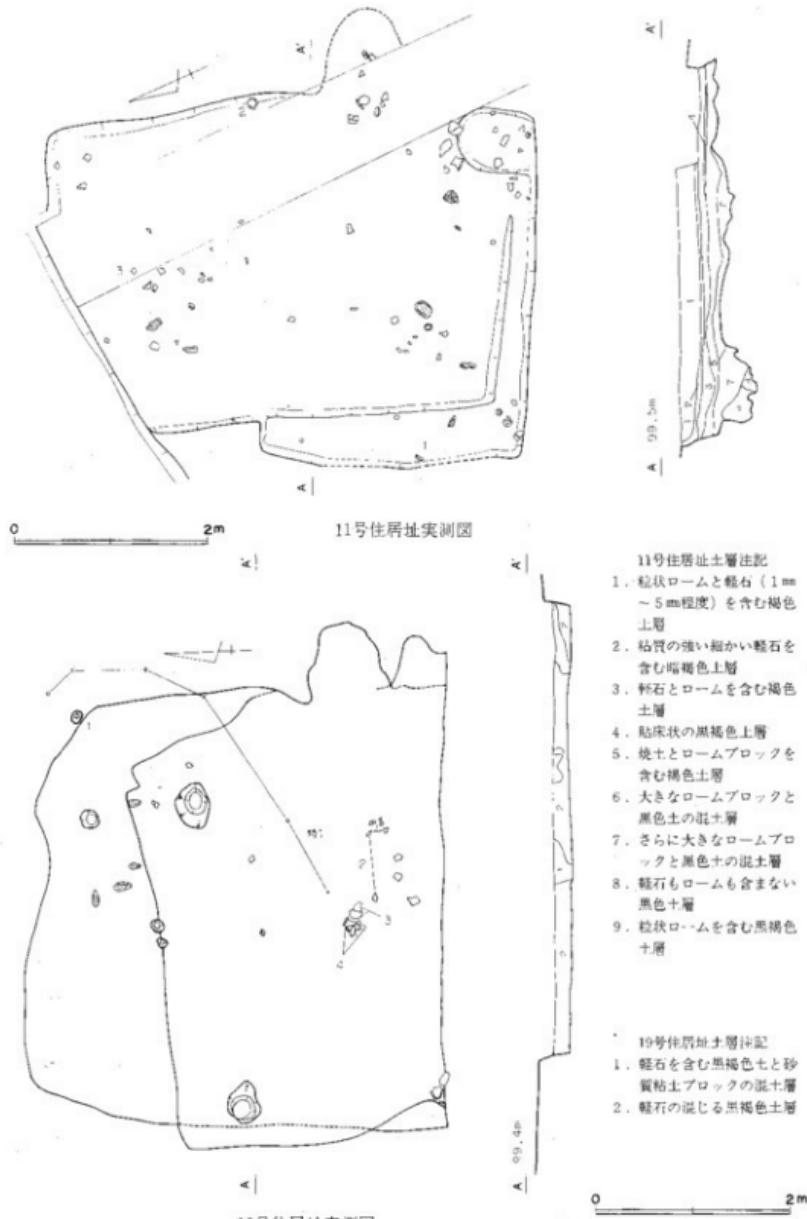
第10図 14号住居址・カマド実測図



第11図 16号住居址・カマド実測図



第12図 18号住居址・カマド実測図



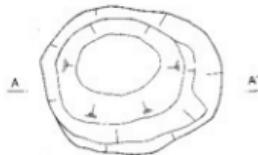
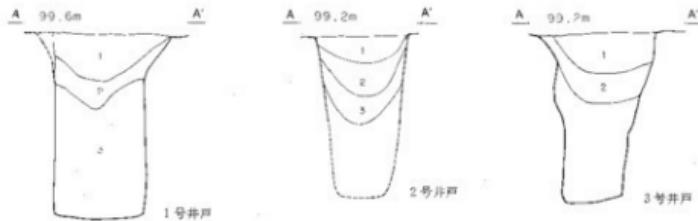
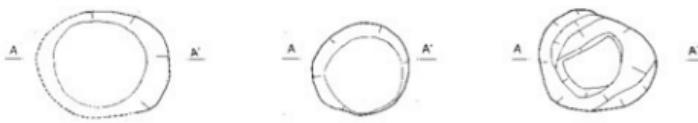
11号住居址実測図

11号住居址土層注記

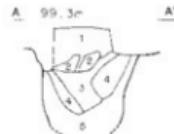
1. 粒状ロームと軽石（1mm～5mm程度）を含む褐色土層
2. 粘質の強い細かい輕石を含む暗褐色土層
3. 軽石とロームを含む褐色土層
4. 貼床状の黒褐色土層
5. 烧土とロームブロックを含む褐色土層
6. 大きなロームブロックと黒色土の混土層
7. さらに大きなロームブロックと黒色土の混土層
8. 軽石もロームも含まない黒色土層
9. 粒状ロームを含む黒褐色土層

19号住居址実測図

第13図 11号住居址・19号住居址実測図



3号土坑



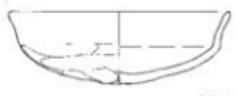
4号井戸

- 4号井戸上層注記
1. 軽石30%を含む褐色土層
2. 軽石30%黒色土層
3. 軽石をほとんど含まない黒褐色土層
4. ロームブロック含む黒褐色土層
5. 少量の軽石を含む黒褐色土層

0 2m

- 3号土坑上層注記
1. 砂質の褐色土層（軽石30%）
2. 軽石を含まない黒色土層
3. 砂質の褐色土層（軽石20%）
4. 砂質の褐色土層（軽石10%）
5. 砂質の褐色土層（軽石5%以下）粘性が強い

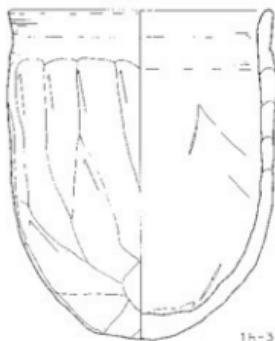
第14図 井戸・土坑実測図



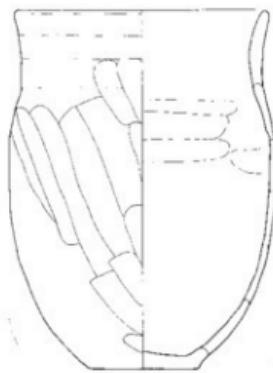
TH-1



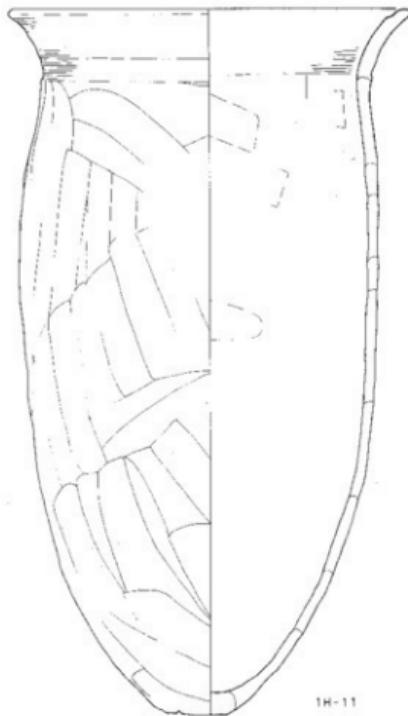
TH-2



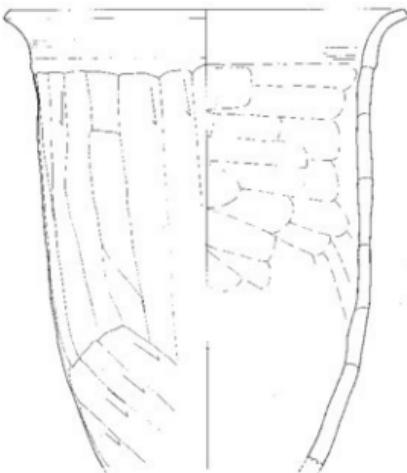
TH-3



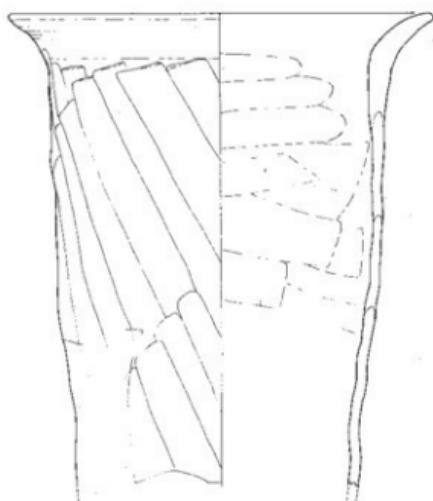
TH-4



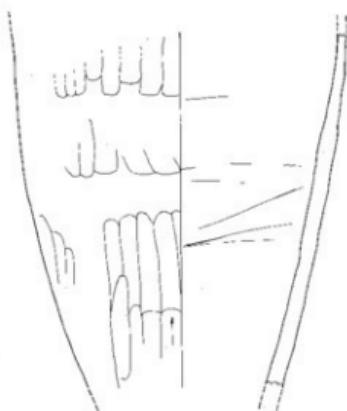
TH-11



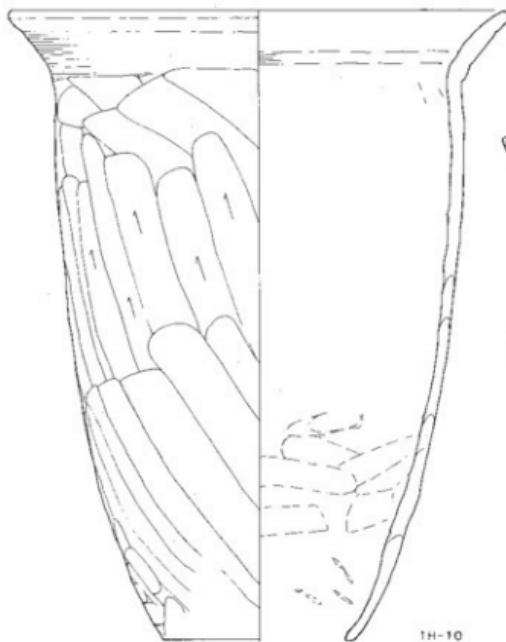
TH-6



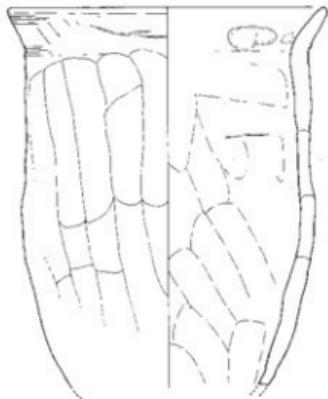
TH-7



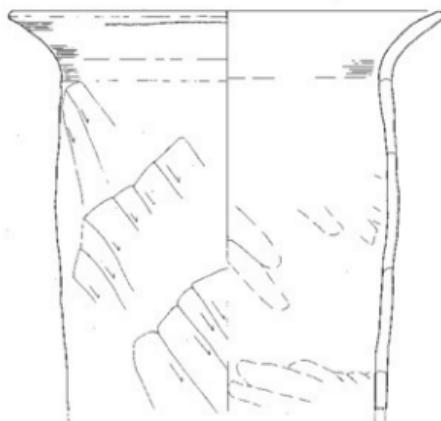
TH-9



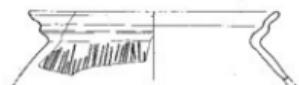
TH-10



TH-5



TH-8



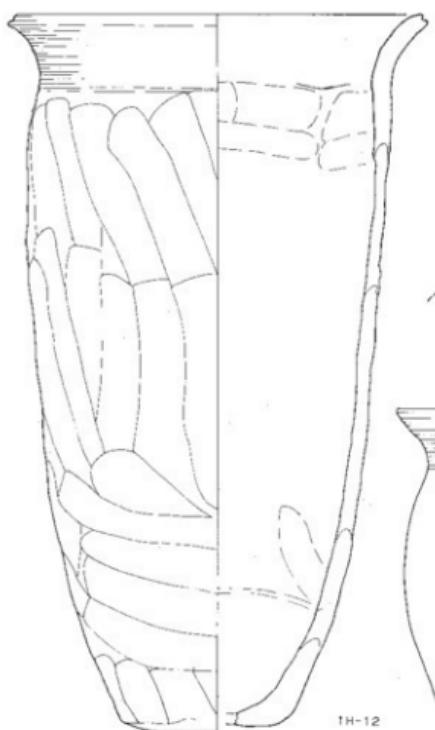
2H-1



3H-1



4H-1



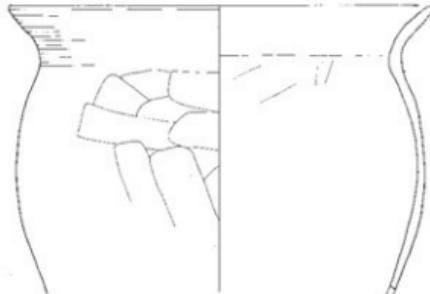
TH-12



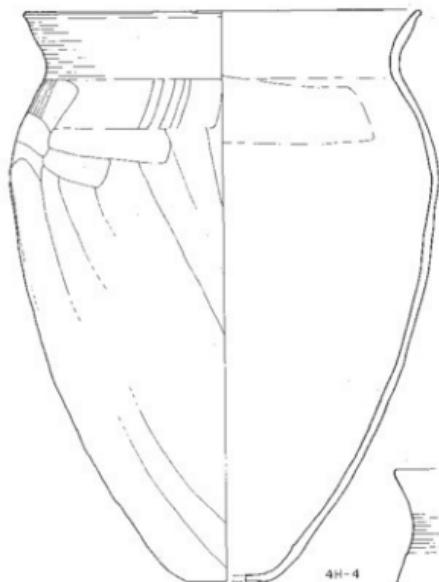
4H-2



4H-6



4H-3



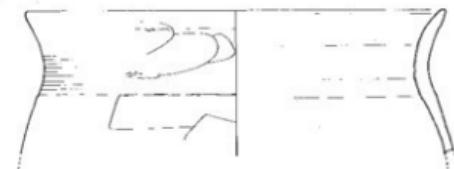
4H-4



5H-3



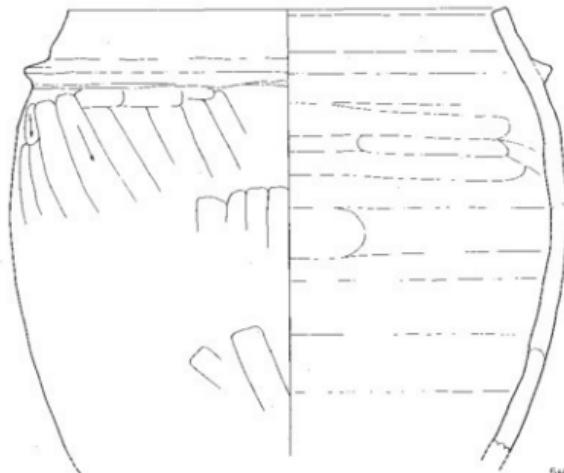
5H-2



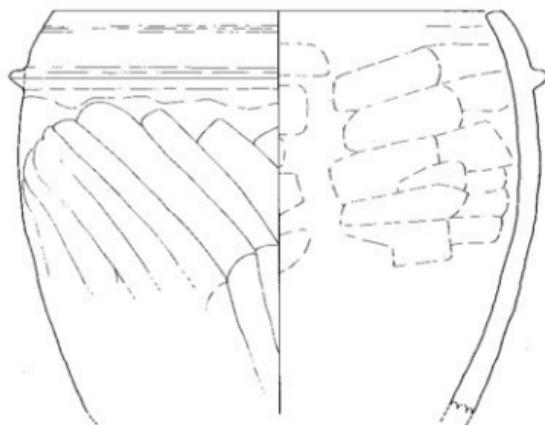
4H-5



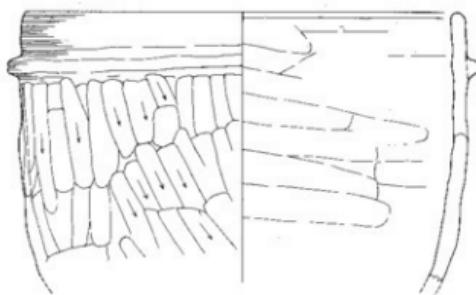
5H-1



5H-6



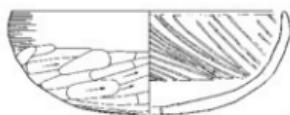
SH-4



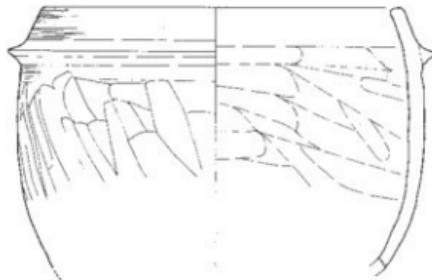
SH-5



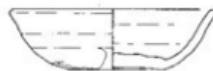
7H-1



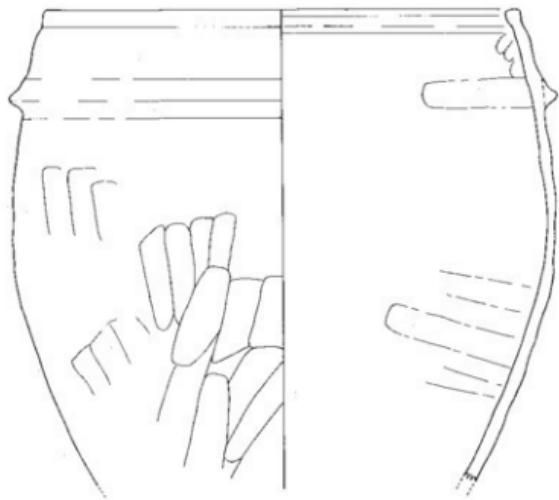
7H-3



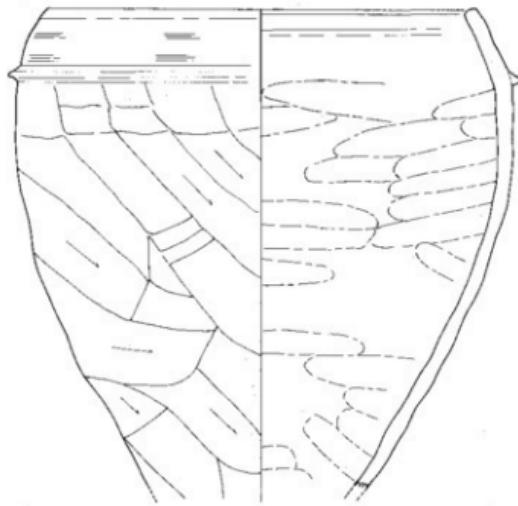
7H-2



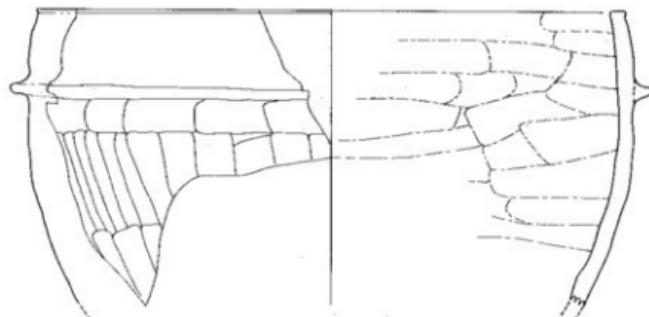
8H-1



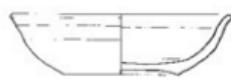
SH-7



SH-8



9H-3



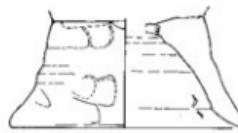
9H-1



10H-2



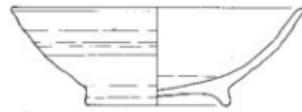
10H-1



9H-2



10H-3



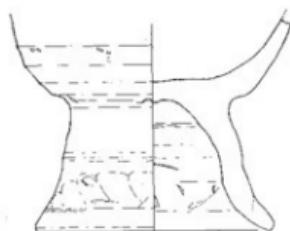
11H-1



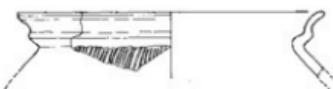
11H-2



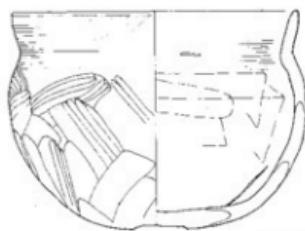
11H-3



11H-5



11H-6



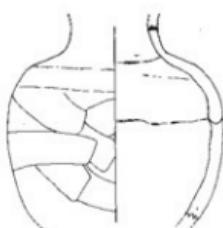
12H-2



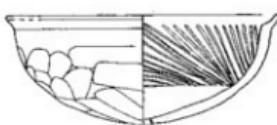
12H-1



12H-3



13H-1



12H-5



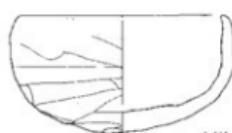
14H-3



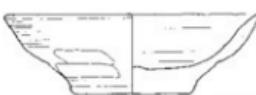
14H-1



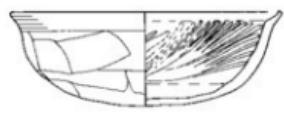
12H-4



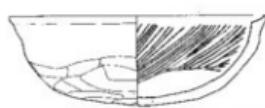
14H-2



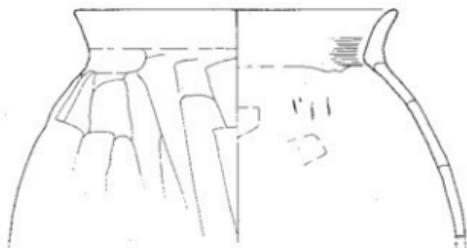
16H-1



17H-1



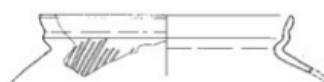
17H-2



17H-5



17H-3



17H-6



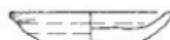
17H-7



17H-4



18H-1



18H-2



18H-3



18H-4



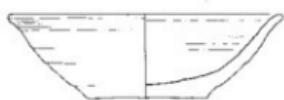
18H-5



18H-6



18H-9



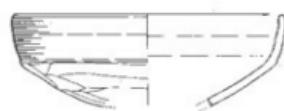
18H-8



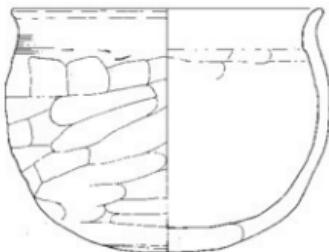
18H-7



19H-1



19μ-2



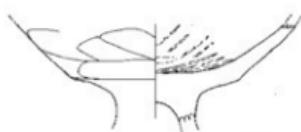
19H-3



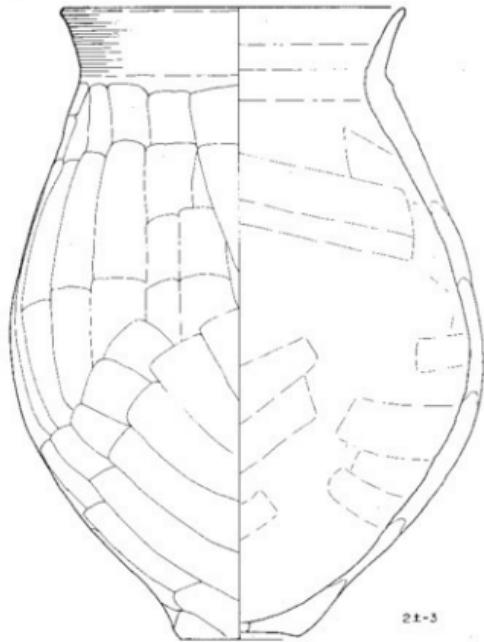
12-1



2±1



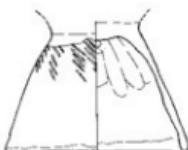
3μ-2



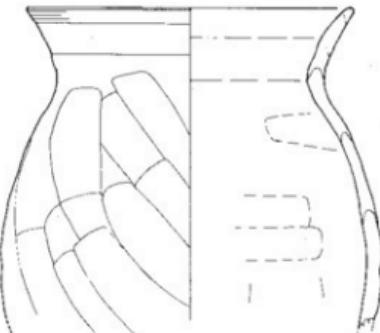
2±3



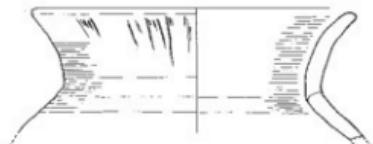
C5グリッド-1



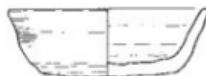
C9グリット-1



19H-4



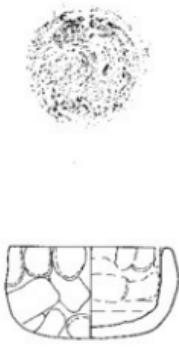
2±-2



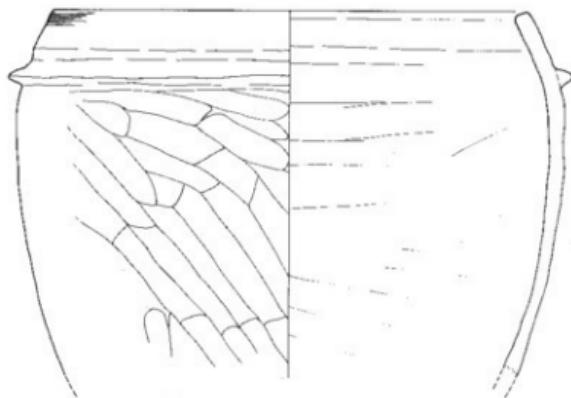
D9グリット-1



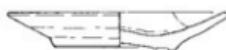
3±-1



D6グリット-3



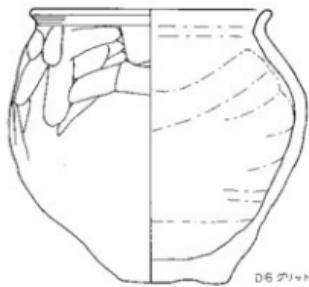
D3グリット-1



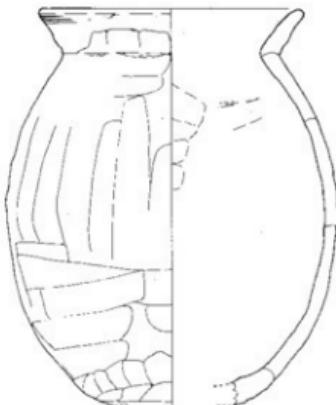
D6グリット-5



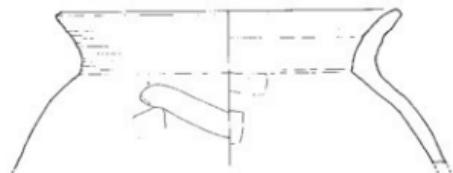
D6グリット-2



D6グリット-6



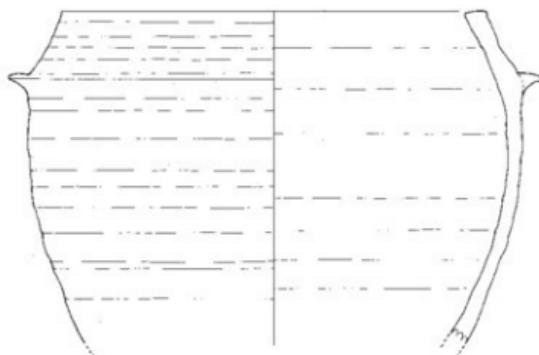
D6グリット-1



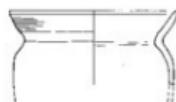
D6グリット-4



D10グリット-2



D8グリット-1



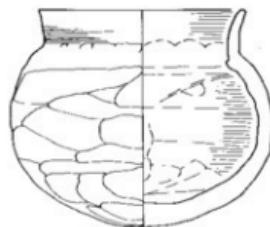
D10グリット-3



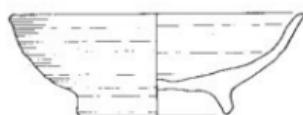
E4グリット-3



D10グリット-1



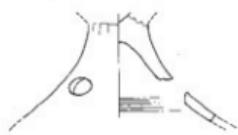
E1グリット-1



E4グリット-2



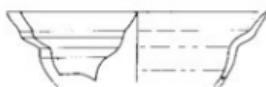
E4グリット-1



E8グリット-3



E8グリット-2



-1



E8グリット-3



生川遺跡（上空より）



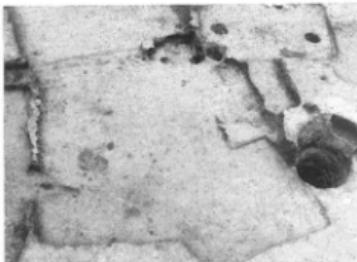
1号住居址全景



3号住居址全景



1号住居址カマド全景



2・4号住居址全景



5号住居址全景



12号住居址全景



5号住居址遺物出土状況近景



18・19号住居址全景



17号住居址カマド全景



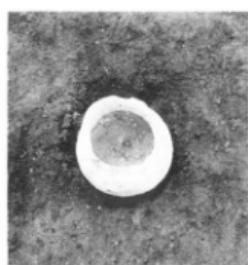
18号住居址遺物出土状況近景



12号住居址遺物出土状況近景



19号住居址遺物出土状況近景



確認面遺物出土状況近景



1H-1



1H-5



1H-2



1H-3



1H-10



1H-4



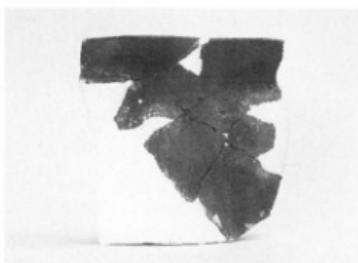
4H-1



1H-11



1H-12



4H-3



4H-5



4H-4



5H-1



5H-2



5H-6



5H-3



7H-1



5H-4



5H-8



5H-5



7H-2



5H-7



7II-3



9II-1



10II-1



10H-2



9H-3



11H-4



10H-3



11H-5



11H-1



12H-1



11H-2



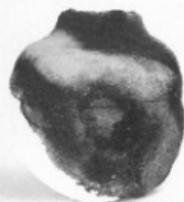
12H-2



11H-3



12H-3



13H-2



17H-4

14H-1



17H-5

14H-3



18H-1

14H-2



18H-2

17H-1



18H-3



18H-8



18H-4



18H-9



18H-5



19H-1



18H-6



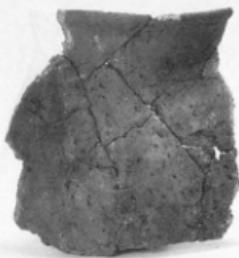
19H-2



18H-7



19H-3



19H-4



D 3 グリット-1



C 9 グリット-1



D 6 グリット-2



D 6 グリット-1



D 6 グリット-3



D 9 グリット-1



D 6 グリット-5



D 6 グリット-4



D 10 グリット-2



D 6 グリット-6



E 1 グリット-1



D 8 グリット-1



E 4 グリット-1



E 4 グリット-2



D 10 グリット-1



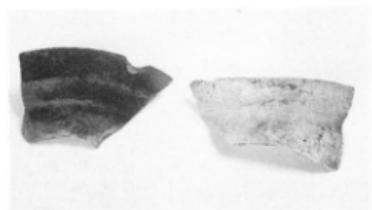
E 8 グリット-1



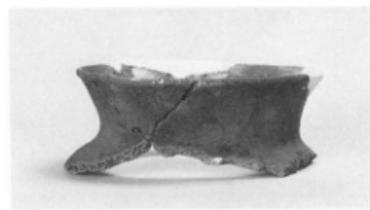
E 8 グリット-3



2±-1



D 10 グリット-3



2±-2



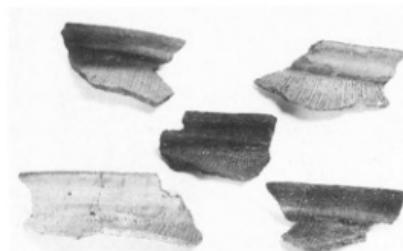
E 4 グリット-3

17H-7

3H-1



2±-3



1±-1

2H-1

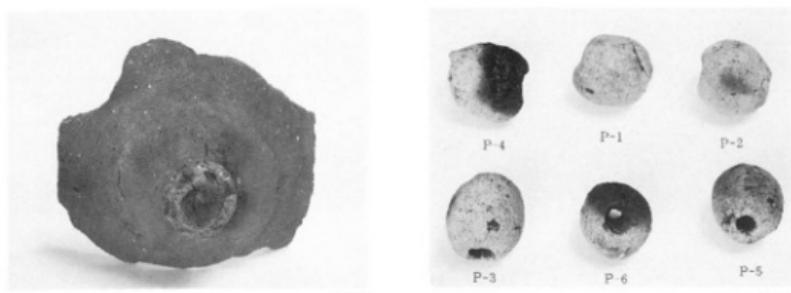
11H-6

4H-5

17H-6



3H-1



特1



調査実況図南側より



全景東から



1・2・4・5・6号住居址
1号井付近出土品

生川遺跡

昭和63年9月20日 印刷

昭和63年9月25日 発行

編集 又ナガ環境測設株

発行 前橋市教育委員会
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

印刷 上海印刷工業株式会社



